

静岡市旧大川村方言 : 1

著者	国立国語研究所
ページ	1-92
発行年	1972-03
シリーズ	方言録音資料シリーズ ; 13
URL	http://doi.org/10.15084/00003033

方言録音資料シリーズ—13

静岡市旧大川村方言（1）

国 立 国 語 研 究 所 編

1 9 7 2

このテキストは、方言研究のための資料として
つくられたものであり、録音テープは国立国語研
究所に保管されている。

この巻におさめた方言の録音とテキストの作成
とは、すべて国立国語研究所話しことば研究室の
もとめによって、この方言にとくに造詣のふかい
山口幸洋氏がおこなったものである。

も く じ

収録地点とその方言について	1
表記について	7
本 文 (大工の親方)	10
(1)	11
(2)	26
(3)	37
(4)	81
注	91

収録地点とその方言について

1. 収録地点名 静岡市上湯島（旧大川村地内）

2. 話し手

（略号） （氏名） （性別、生年） （職業）

A 大森実雄（男、明治45年生まれ） 大工

（居住経歴） 0才～15才まで大川村崩野^{クスレノ}、16才より大川村
湯島^{ユシマ}（現静岡市）で大工の弟子入りをし、今に至る。

B ユモトコウサク 湯本幸作（男、明治43年生まれ） 農業

（居住経歴） 0才より現在地（上湯島）。

C 湯本みや 幸作妻。

（居住経歴） 20才まで湯島、以後、上湯島。

D モリタミツシ 森田光司（男、明治33年生まれ） 農業

（居住経歴） 0才より現在地（湯島）。

Y ヤマグチユキヒロ 山口幸洋（男、昭和11年生まれ） 商店経営

（居住経歴） 0才より 静岡県浜名郡新居町^{アライ}（採録者自身）

上記のうち、C、Dの発言は極度に少ない。又、B、Yもなく、全編を通じては圧倒的に、Aの発言で占められる。B、C、D、Yいずれも聞き役である。Aの方言は正確には崩野方言というべきだが、当録音に現われた文法、アクセント等の特徴は殆ど「上湯島」と異なるものではない。しかし、収録地点とその方言名は「静岡市旧大川村」方言とする方が良いだろう。

3. 旧大川村概観

安倍郡大川村は、井川村、梅ヶ島村などとともに、昭和44年4月静岡市に併合された。これにより安倍郡は全部なくなったのであるが、それまでの安倍郡は、安倍川上流の大河内村、梅ヶ島村、玉川村、藁科川上流の大川村、清沢村と、更に大井川上流の最奥部、井川村とからなり、それぞれ高山に境された辺境地帯である。旧大川村は、北は旧井川村、東は旧玉川村、西は榛原郡本川根町に接しているが、相互に自動車道はなく、いわゆる閉塞谷の観を呈している。村内においては、坂ノ上^{サカノカミ}、日向^{ヒナタ}、湯島等は川に添っているが、大間^{オオマ}、檜尾^{ナラオ}、崩野は源流地帯の高地に位置して、地勢は異なる。村中にかなりよく流布している伝説によると、大川村は大間より開けた、といい、大間の開祖は妖術使いの砂宮^{イサミヤ}大夫^{ヂユウ}であって（砂家は現存する）、井川村と縁があったという。

一般にこの地方の歴史的由緒は明らかでないが、大川村は駿河茶の発祥地とされていて、茶の栽培は早くから取入れていた。栃沢^{トチザ}という部落は、駿河茶の元祖、聖一^{セイイチ}国師（1200～1271）の出身地であるという。

4. 収録した方言（旧大川村方言）の特色

(1) 当方言は、旧井川村方言や榛原郡本川根町方言その他とともに、この地方で「ギラ」と呼ばれていて、分類上一型アクセント方言に属する。したがってこの方言最大の特色は、その「ギラ」と呼ばれる独特の文アクセントにある。そして更に、特有の「句読法」「語順」が感じられもするのである。しかるに、これらについての記述の方法論、又、他の諸方言との比較の基準も未だ、ないので、今後の研究を待たなければならない。

(2) 当方言は村の人々の間での定評として「井川のことばと一緒」といわれている通り、それは殆ど事実である。しかし次のような異同が「音声」分野にあるのであり、これらは通時的に井川より古い面かと思われる。

イ) 語頭がハ行音で始まる動詞の場合、パ行音で発音されることが極めて

稀にあるようである。但し通常は(但し、ヒップル<降る>、イッパシ
ル<走る。行く>等、接頭語を伴なっていることが多い。

ロ) ai>æ:、又は、e:、oi>φ:のような、母音の連声化は、ない
に等しい(単語別に例外的なものを除く)。

ハ) ワ行四段活用動詞の假定形、命令形に〔We〕があらわれる。

(例。〔utaWe〕歌え)。

しかし次の特徴は井川方言と共通である。

ニ) ガ行音は、語中語尾でも破擦的な〔g〕である。(駿河、遠江では、
この井川、大川と清沢一部のみの孤立的特徴)。

ホ) 語頭の/e/は〔je〕と発音される場合がある。(静岡県山村地帯
に共通)。

ヘ) /d、z、g、b/音の前に促音が立ちうる(よくあらわれる。ギラ
方言に共通する)。〔bibbo:〕(貧乏)、〔kodda〕(今度)のよう
に撥音に対して交替するものと、〔amedde〕(雨で)、〔so:dda:〕
(そうだ)のように、添加するものとある。

ト) 無声子音に挟まれた母音〔i〕、〔u〕の無声化は東京方言と同程度
(静岡地方にあっては、ギラ方言のみの特徴)。

(3) 文法面の特徴は、ギラ方言、特に井川方言と共通である。

イ) 待遇法の未発達(駿遠の山村と共通)。

ロ) 助動詞的なもので「推量」のラ、ズラ、「意思」のズ、「過去」のケ
などが目立つ(駿河一般と同じ)。

ハ) 静岡市とその周辺に広まっている助詞ンテ(理由の「から」の意)は
この方言になく、デ、モンデがそれに代わる。

ニ) 「否定」のノー、「禁止」のソがある。(ソは、実際に使われること
は今では稀)。

5. 地点選定の理由

「特色」の項で述べたように、当方言は、井川方言と同じか或いは一部に古い面をもつ方言であるが、これまで殆ど無名であったので、これを紹介する。

次に、井川がダム建設後の観光開発と急激な人口減に伴ない、「良い話者」の選定に困難が感じられるのに対し、大川はその点でも期待が持てた。

次に、大川方言は、同じギラでも井川方言や本川根方言に比し、その文アクセントに変化があるとも考えられるので、その実態に接する必要があった。

6. 当録音採用の理由

特にこの地方においては、話者の性質及び会話の場面によって、方言の自然さが失なわれる度合いが大きく左右される。例えば「否定」のブーなどは、実際は年少者のあいだでもよく使われているのに、私ども他所者の前では、村人どうしても、ナイを使うほどである。この土地では、よくよく恵まれないと、その実態に気づかないで終るおそれがある。

私は、村の庚申講に出席してそこでの雑談を録音することにしたが、あらかじめ、村の人にそのような会合に出席すべく承諾を得る、或いは相談をかけた。この録音は、その相談をかけた際の録音である。ナショナルのカセット式テープレコーダー「RQ-210」を使用した。録音していることは知らせてなく、話手達は気づかなかったもようである。又、このときの話手の中心、大森実雄氏は、私が大川村へ車で向う途中、バスに乗り遅れて道ばたに立っていたところを、のせてあげた人であるが、この人がたまたま、本人自らいう通り「方言を直して話すことができない」人であるとともに、たいへんな話し好きであるため、方言の自然談話採取という目的のため幸いした。大川村での私の経験から、これほどの話手は珍らしいように思うので、特にこの録音を文字化対象として採用した。

7. 内容のあらすじ

(1) ~~原稿用紙1～27~~

山口が録音のため、村の人がごく自然に話しあうような場所へ出会わせたいむねを伝え、協力を依頼する。そこで大森さんと湯本さんが、どういう人が良いかなどと話しあいながら、結局、庚申講に出席するのが良いだろうということになる。その間、村の人何人かについて、その話しぶりや対人的な性質を語る。

(2) ~~28～45~~

大森さんが、いびきを録音にとられた経験を話し、次いで録音をとるにはどうするかという話に戻る。そして再び、村一番の口達者だという、ドカーン辰のことなどが話題にのぼる。

(3) ~~46～122~~

村内各所の庚申講のメンバーの批評を通じて、日向の人達がおもしろいなどという。庚申講の加入者は、創価学会員が抜けたりして最近少なくなったことなどの近況に及ぶ。そのあと山口が方言のことを二、三聞くと、それにつれて方言の別の単語とその用例などの話が出る。次いで再び庚申講へ出るための手順や、その家の人の気性を考え合わせて、八月八日、上湯島の八兵衛さんの家に頼めばよいというような話になる。

次に、私が「大森さんは弁もたつし声を通る」と云ったら、大森さんは「静岡市の大工建築業組合の組合長は良い人だが声を通らない」といったような話をしはじめる。そしてここから話がどんどん進み、大森さん得意の長広舌がつづく。曰く「俺はその組合長の家に泊めて貰ったのだが、そこには操という弟子がいる。その操という若者は、健ちゃんという大工の子で、俺はその健ちゃんの兄弟子に当るのである。そもそも健ちゃんこと木村健一は、木村豊作という大工の子であるけど、豊作について大工を習い始めたのは俺の方がわずかに早かった。それで俺と健ちゃんとは年は同じだし、腕前は健ちゃんの方が上だけれども格としては俺の方が兄弟子にな

る。豊作の親は庄助大工で、庄助の親が木村辰蔵である。

辰蔵は正しくは木村辰蔵院部正保と名乗るその昔の大工の大親方で、静岡の浅間神社の普請をしたとき上からその苗字と号を賜ったほどの人である。俺はかねてより自分もその流れを汲む者として辰蔵のことを知りたかったのだが、昨年、さる事から、木村辰蔵が慶応2年に崩野の観音堂の普請をしたときの絵図面を手に入れたばかりだ。ところが過日、崩野の大川井清さんに「貸してくれ」といわれて持っていかれてしまった。あとで考えてみると、あの絵図面は崩野で代々の壇徒総代である大川井さんに権利があったのかもしれない。しかし俺は崩野の宝光寺の和尚に貰ったものであり、決してだまして取ってきたものではなかったのだ。

およそあの絵図面については字なども俺が苦勞して解説したものだった」

(4) 1.2.3～1.3.9

「あの図面がどうしてお寺にあったのか知らないが、俺は崩野の実家で、お爺さんの体がわるかったとき、お寺に頼んであった二夜三日の祈禱のおふだを貰って帰るときに、和尚から呼びとめられて、あれを貰った。和尚は老令でもうぼけ気味だが、日頃俺がことばをかけたりしたものだから和尚の方も俺を好いていたようだった」ざっとこんな調子で、余分なことを云いながら話は更に続く。木村豊作についての思い出話も面白いのだが、文字化は一応打ち切ることにする。

表 記 に つ い て

- (1) 指定の字母以外に使用した字母としては〔æ〕、〔φ〕がある。いずれも連母音が融合する場合にあらわれるもの（母音の連声という）である。

例、ojadagasæ:（親だがさ）、kitagasæ:（来たがさ）、jφ:（良い）

当方言には本来、ai>æ:、oi>φ:のような母音の連声化はないが、このことは実は、当「静岡市在」の地方においては孤立した存在なのであり、この方言は目下、静岡市方言など「連声化のはげしい方言」の影響化にあって、連声発音が混じることが、すでに以前からの新しい傾向である。当録音にあらわれた〔æ:〕、〔φ:〕は、例としては少ない方で、用例も限定されている。文末助詞「さ」（〔sa:〕又は〔sai〕という）にあたる〔sæ:〕と、「良い」（〔joi〕という）にあたる〔jφ:〕の例のみとなっている。

ほかに非共通語的音節としては

tju 「～という」の場合にのみ

we 動詞「歌う」「会う」などの仮定形、命令形にのみ

wo /o/の語中語尾の場合、格助詞「を」の場合を含む。

je 語頭の/e/、「可能」の助動詞「エル」の場合にも。

などがある。

- (2) 句読点。当録音の話手達の談話体は、句読法がやゝ異色であるように感じられるが、これは方言的なものと考えられるので、将来の研究の一助になればと思い、あえて句読点を記した。「句切り」は談話中の呼気の段落であり、観察に際しては、それを感じとった個所に、句読点「、」を付したのであるが、それはあくまで私が感じた「句読」なのだから、おそらく私の主観が混じっているかとも思われ、今後、検討の余地がある。

- (3) アクセント。アクセントは、句読点から次の句読点までの一句切りを単位とし、その単位内において、声上がる所を「、」下がる所を「」であらわす。この上がり下がりの組み合わせが意外に複雑であるとともに、この方言の特

徴として今後の研究資料として価値が高いと思うので、以下にその記載例の読み方を解説しておく。

na[osa]naiga[na

na からoにかけて上がり、oからsa まではその高さをほぼ持続しつつsaからnaへかけて下がる。そしてnaigaはほぼ同じ高さのまま、末尾のnaで上ったもの。

juq[ɕja: dame]ka

この例におけるɕja:とdame は、ほぼ同じ高さであるとする。

[soNnako] to: juq[ɕja]: dame]qda

この場合はso が最初からやゝ高め（普通にso[Nnaと発音する場合のNna の高さ）に発音され、その高さをほぼ持続したままのko が、toへかけて下降することを示すが、次はその低められたto: の高さと同じ高さでju が始まり、ɕjaが再び高くなったあと、:にかけて下がる。しかし今度は低くなったままdame のme が再び次のqdaにかけて下降を起すので、ɕjaからは二段に下がったことになる。実際には、このような具合に、三段四段と下がることもありうる。

na]ruhodo

na からru へかけて下がるのだが、na の始まりの高さが普通より低く感じられるもの（普通にso[Nnaと発音する場合のso の高さ）。

[sono]to]kino

no からto へ下がり、更に続けてki へも下がる発音。このような発音は、結合の強い連文節、或いは複合語、また、o[ku]meNnasida[de]na]: のように、文末助詞na: のあらわれる場合によく起ることに注意したい。

..... kore]qɕju:[to] juije]nai[: jaqpari

文節末のto が高く発せられたあと、juije は低く続くが、そのあと更に]が起きる。次はi[: のような文節末上昇が起きるが、jaqpari はその高さを持続したまま発音させられたものである。

..... ju:[ga、 kokono

このような場合は、ga が上昇したあと句読点があるので、その高さはここで打ち切れ、その次の kokono は、改めて一段低く発音されたものであることを示す。前記 jaqpari の場合は、その前に句読点がないから、前の文節と同じ高さなのであり、前が高ければ高く、低ければ低いということになり、この kokono の場合のように、前に句読点があると、「がない限り、必ず低く発音されたこととする。

大 工 の 親 方

録音日時 1970年7月17日

録音場所 静岡市上湯島湯本幸作宅

話 し 手 (略号)

A 大 森 実 雄 (明治45年崩野生れ, 湯島在住)

B 湯 本 幸 作 (上湯島)

C 湯 本 み や (湯島生れ, 上湯島在住)

D 森 田 幸 司 (湯島)

Y 山 口 幸 洋 (採録者)

解説：録音のため村の寄合に出席したいという山口の申出について大森さんと湯本さんが話しあったところを録音したもの。大工の親方の思い出話など雑談が多い。

(1)

A a¹ra¹wa hi¹nataa¹tarino sju:ga ju¹zi¹maatarino
あれは 日向あたりの 衆が 湯島あたりの

sju:jorika keqkjoku ko: ¹ki¹ga na¹N¹cju:zuraka
衆より 結局 こう 気が 何というだろうか

ko: si¹toni osareno: ¹q¹cju:daka zoq¹ka¹inazuraka,
こう 人に 押されないというか 世間ずれなのだろうか

so¹idade mu¹kidasiqdeite, , ju¹zimanimo
それだから むきだして (不明) 湯島にも

so:ju:sito¹mo i¹ruzuraga
そういう人も いるんだろうが

B i¹rusa¹e¹re
いるさ

D i¹runja¹: i¹ru¹jo
いるには いるよ

A ¹morokoza:no ki¹joomitaina sitoga ¹mo¹rokoza:nimo
諸子沢の 清男みたいな 人が 諸子沢にも

irudasi ¹hi¹natanidaqtemo ma¹ta aratama¹qta ,
いるんだし 日向にだって また 改たまって (不明)..... (

¹ha¹tena.,
さて

B 「aNNana」: iqkeN areqda」:
あんなのは 一軒 あれだ

A 「ho」rezja:「sa, 「o:mano megumu」saNcio mi」te mjo」:,
それではさ 大間の めぐむさんの家を みて みよ

do「kono sitodaka si」rano:jo:na ko」toba: cukau da na」:
どこの 人だか 知らないような ことばを 使うんだな

B 「so」ka hu」N
そうか ふうん

A megumu「saN
めぐむさん

B na「oite」ka」: mu「kucizja」: nai「ka
直してか 無口では ない(の)か

A 「naoite」sa, arja: 「naoite kire」:ni nao」icjaqteite
直してさ あれは 直して きれいに 直しちゃっていた

anosito
あの人

B qtara 「tonikaku omosiro」ina」: mazu
..... ったら とにかく 面白いな まず

hi「natazja」: do:kaNtacuga icibaNdaga「na」:,
日向では ドーカン辰が いちばんだかな

naNcjuqte」mo
何といっても

D jarekucja: i:wa」i
冗談が うまいよ(いいよ)

A o「ku」meNnasida「de」na」:
臆面なしだからね

B 「do:ka」Ntaca: arja: 「o:ka:mu」raqde「no」 naNzu「ra,
ドーカン辰は あれは 大川村での 何だろう

jokozu」nazura「na」: arja:
横綱だろう あれは

D oqkja: tora¹no¹:
臆気は とらない

B oqkja: torana¹itoju:koto¹da
臆気は とらないということだ

D ¹daga: jaqpa¹ri i¹maju: sonona¹: , ko¹kowa¹q
だが やっぱり 今いう そのな ことはっ

¹teju:tokoqzja: sjaberie¹naizja:naida¹ka¹ arja: ,
ていう所では ししゃべることができないのではないか あれば,

ja¹rekucja¹: ju:
冗談は いう (のだけれど)

B ja¹rekucja¹: ju:qdaga ma¹tomaqtakoto kore¹qcju:¹to¹
冗談は いうんだが 整まったことを これだけっていうと

juije¹nai¹: jaqpari
いうことができない やっぱり

A soizja¹: i¹ke¹Nno haqpjo:da¹naNteju:to
それでは 意見の 発表だなんていうと

B ¹so:ju¹:kota: da¹me
そういうことは だめ

A ¹dame¹ka:
だめか

B da¹me
だめ

D he¹de¹mo sono so¹Ntokuni kaka:¹rutoka , se¹kiniNzjo:
それでも その 損得に 関わるとか 責任上

sjaberanja N:ino:naNteju: to¹koq¹zja:¹ sjabe¹rujo
ししゃべらなくては ならないなんていう 所では ししゃべるよ

anootoko¹a , ija soiqde¹mo , koq¹zjo:ga ciga¹u ,
あの男は いや それでも 根性が ちがう

wa¹reware¹ta:¹ ciga¹wa:
我々とは ちがうよ

- A 「ci^lwa hi:teq^ltemo^lka:⁽¹⁾
血は 引いていってもか
- D 「ci^lwa^lsa hi:cja^l: ino^l:qda^l
血はさ 引いては いないよ
- B 「ci^lwa hi:cja^l: inai^lqda^l
血は 引いては いないよ
- D ci^lwa hi:cja: ino^l:sa
血は 引いては いないさ
- C do:kaNtacu^lto^lka^l:
ドーカン辰とか
- D o^lreeta^l: hi:cja^l: ino: ka^lneicira^l: hi:te^lru,
俺とは 引いては いない カネイチ達は 引いている
- o^lmi^ljaqdano ka^lneici^lra^l: hi:te^lru
おみやだの カネイチ達は 引いている
- B a: 「mi:⁽²⁾wa, ci^lwa hi:cja^l: inaida^ljo^l
あゝミーは 血は 引いては いないんだよ
- A a: ciwa, hi^l:cja^l: ino:qda^lna^l: arja sa^lkutacu,
あゝ血は 引いては いないのだよ あれは 作辰,
- 「sa^lkugdamoqdade
作辰だから
- B o^lhukuroto ko^licuto to, 「kjo^l:daiqcju:
おふくろと こいつと (不 明)と 姉妹という
- dakenomoNde
だけのものです
- A i^ltokoqda^ljare o^lra^l.....
いとこだよ 俺の(不 明)
- B 「ke^l:to:zja naidaN^lsa
系統では ないのだから
- D 「do:^lmo, uma^lisju:ga na^li^lna:^l ora^lNho:nja^l:
どうも 具合の良い人が ないな 俺の方には

B 「zju:saku「sa
重作さ

D 「a:「a: zju「saku「ga「 jo「karo:「na: korja: ,
あゝあゝ 重作が よかろうな これは、

「ho「NniNdemo tokudana「Nte juqtara do「de:「
本人でも 得だ (お金になる, の意) なんて云ったら とても

B 「soNnako「to: juq「cja:「 dame「qda
そんなことを 云っては だめだ

D juq「cja:「 dame「ka
云っては だめか

A ko「toba: naosuka「ja「 rju:「ni:wa
ことばを なおす (改める)かな リュー兄 (重作?) は

D na「osa「nai
改めない

B na「osa「naiga「na, i「kuraka ke「kaisiruda「ze
改めないがね いくらか 警戒するんだよ

sorjo:ju:to da「reqde「mo「 ho「da「ga
それをいうと 誰でも そうだが

Y iya, ro「kuoNo to「ruto, to「rutowa juq「te「mo
いや 録音を 取ると 取るとは 云っても

e「kedo「ne: , sono: , ko「toba「o kiki: ki「taqteju:-
良いけどね その ことばを 聞きに きたっていう

「to, mazuirasi「da「ne, ko「toba「zjanakute, ta「da,
と まずいらしいんだね ことばじゃなくて ただ

ha「nasi「o kiki: ki「tato
話を 聞きに 来たと (云えば良い)

A keq「kjoku ho:daga aNtawa ano, ko「tobao, ro「kuoNo
結局 それだが あんたは あの ことばを 録音を

to「qte, ha「na「sutokoro: ano:, arewo, zu:「qto,
とって 話すところを あの あれを ずうう

ko¹ sawano:qte¹ mo¹ joiwakeqzu¹ ra¹ naniga¹ soNna¹ ba¹ ka:¹
こさえなくても 良い訳だろう 何が そんな ばかを

site¹ ruto¹ ka¹ naN¹ datokaqte¹ ju¹: sonokoto¹ wa¹, wo¹,
してるとか 何だとかっていう そのことは を

tada¹, hi¹ roeja¹: i:wakeqzu¹ ra¹, hi¹ to¹ koto¹ hito¹ koto¹
ただ 拾えれば 良い訳だろう 一言 一言

hoiqzja:¹, na¹ nijuqta¹ ko:ni:ra¹: kono¹, te¹ kiwa¹
それでは 何云った 幸兄達は この あいつは

nanjo¹: hakoqdei¹ ruqte¹ ko:ju¹: wakeqda¹ na¹: hoide¹
何を (不明) でいるって こういう訳だな それで

hama¹ macuno¹ ho¹:zja:¹ do:ko:ju¹: koto:ju:¹, o:ka¹: -
浜松の 方では どうこういうことをいう 大川

zja¹: jakuta¹ imonai¹ soNnani¹ hataraita¹ qte¹ naNda¹ q-
では つまらない そんなに 働らいたって 何だ

teja¹ na¹ Ncjuqte¹, i¹ roiro¹ sono¹, sono¹ to¹ kino¹,
なんて いろいろ その そのときの

koko¹ no¹ ko¹ to¹ ba¹ ga¹ arumo¹ Ndene¹, so¹ redakiwo¹,
ここの ことばが あるのでね それだけを

i¹ cigoici¹ go¹ hiroqta¹ dake¹ demo¹ jo¹ iwakeqzu¹ ra¹
一語一語 拾っただけでも 良いわけだろう

B do¹ ko¹, ma¹ isaka¹ qte¹ ju:da¹ ka¹
どこ? 舞阪って いうのか (Yに向けて)

Y ko¹ Ndowane¹: , u¹ Nso¹: , ma¹ isakanoho¹:
今度は何 (Aに) うんそう 舞阪の方 (Bに)

D to¹ johasino¹ cikakuqda¹ ka¹ ja¹:
豊橋の 近くなね

Y so:¹ ni¹ kikuzja¹ nakute¹, jaq¹ pa¹ ri¹ sono¹, se¹ keNba¹
そういうふうに きくのではなくて やっぱり その 世間話

nasio¹ sito¹ rutoko:¹, a¹ rinomama¹ o¹
を している所を ありのままを

A a¹rinomamao¹ka , i¹cigoicigo to¹ruqdena¹ku ,
 ありのままをか 一語一語 とるのではなく

i¹cigoicigodemo e¹:
 (又は)一語一語でも 良い

Y ko¹toba¹o sono: , ko¹toba¹o ki¹ki:ki¹taqte ju:zja¹:
 ことばを そのう ことばを 聞きにきたって 云うのでは

na¹kutene¹: ano: , ma¹: , a¹rinomama¹no , sono: ,
 なくては あのう まあ ありのままの そのう

ba¹kaba¹nasidemo na¹Ndemo e¹:de ha¹.nasjo¹: , so¹:ju:
 ばか話でも 何でも 良いから 話を そういう

hanasjo¹: kikitai¹to , so¹redake
 話を ききたいと それだけ

A ¹so¹:ka
 そうか

Y mo¹ciro¹N , u¹tao utaqte¹mo e¹:si¹ne¹:
 もちろん 歌を 歌っても 良いしね

A ¹koNciwa¹qte ju:ko¹to¹o , ¹oi¹qte ju:to¹ka ko¹Nciwa-
 今日はって いうことを おいって いうとか 今日は

qte ju:ka:rini ko¹korazja ¹o¹iqcju:¹zo¹ korja:
 て いう代りに ころでは おいっていうぞ これは

¹o¹i qte ju: ko¹Nciwa¹qte ju:ko¹towa , ¹oi¹qte
 おいって いう 今日はって いうことは、 おいって

ju:¹ga , kokono kotoba¹daq¹te ju:¹o , hosi¹:wake¹-
 いうのが この ことばだって いうのを ほしいわけ

qzja naida¹na¹:
 では ないんだな

D ¹dore¹:
 どれ (子供に)

A so¹reo hosi¹:zjana¹ida ore so¹reo hosi¹:da
 それを ほしいのではないのだ 俺は それを ほしいのだ

tomo¹qtaqcja
と思ったんだ

Y 「so¹:zjana¹i, 「go¹ku hu¹cu:ni miNna¹gane¹:
そうじゃない ごく ぶつうに みんながね

A 「hana¹sutoko¹: , ko¹rewa , 「cja¹kari
話す所を (不 明) これは 茶摘み

C jaqteru¹jo , 「wakaisju:wa toko¹no: iqtaqcjo:
やってるよ 若い者は (不 明) 行ったそうだ

A 「toko¹no: iqta
(不 明) 行った

D iq¹te mi¹qza orja: hoqzja¹:
行って みよう 俺は それでは

A 「i¹:zu¹ra micu¹ni: becu¹ni
良いだろう 光兄 べつに (急いで行かなくても、の意)

D 「na: ¹ni konomero¹:ga ora ke¹sa ki¹tadaqke¹:ga ,
なあに この (女の) 子が おれは 今朝 来たんだけれど (不 明)

「a¹kikoga mesi¹ni ku¹ruqda naNteju:de ,
あき子が 飯に 来るよ なんていうから

A iwano:ga
いわないが

B to¹ciza¹:de ju:qda¹i gado⁽³⁾:daq¹cja:
栃沢で いうんだよ ガドーだって

A 「gado¹:daq¹te¹ka sito¹nokoto¹:
ガドーだって? 人のことを

C abu¹nai¹zo:
あぶないぞ (子供に)

A soide soNnani to¹kubecuna koto¹ba: cukaqtaqte¹mo
それで そんなに 特別な ことばを 使っても

dame¹daq¹tade , o¹raga mu¹ka:ino o¹jae¹ne:ga naNdaq¹ke
だめだって云ったから おれの家の 向いの おやえ師が 何だっけ

jae¹ne: no kotoba¹: okasi¹: zjanaika , iq¹pu:
やえ姉の ことばは おかしいじゃないか 一風

ka: qte¹ruzjanai¹ka a¹rewa¹ ano: , o¹: kawakotoba¹qzja:
変ってるじゃないか あれは あの 大川ことばでは

naida¹i¹na¹: , o¹: kawakotoba¹qzja: aruga anosito¹wa ,
ないんだよな 大川ことばではあるが あの人は

to¹kubecuni¹ a: ju: kucjo: ki¹ku¹qda: na¹: soi¹damo-
特別に あゝいう 口を 利くんだよな それだ

Ndade are so¹: ju: arenja: naru¹mai¹qcjuqtaqkja¹:
から あれ そういう あれには なるまいっていったわけ

arja: , ma¹: zu anosito¹mo noborikudari joqcja: ,
あれは まず あの人も 登り下りに (私の家へ) 寄っては

jo¹: monani sjaberuga¹ ma: zu okasi: , a¹nosito¹no
用事もなく シャべるが まず おかしい あの人の

kotobawa , u¹ra oNnasju: domoga , sugo: ku manega
ことばは おれの 家の女どもが すごく まねが

sijoidaka do¹:daka , siruqda¹:ja: , jaene¹:no
しよいか どうなのか するんだよ やえ姉の

kotoba¹o
ことばを

B hi¹na¹takotobada¹jo jaeno kotobawa
日向ことばだよ やえの ことばは

A hi¹na¹takoto¹ba¹ka , keq¹kjoku hinatako¹tobadaqtemo
日向ことばが 結局 日向ことばだっても

i: zuraga hi¹natakotobawa hinatakotobaqde ,
良いだろうが 日向ことばは 日向ことばで、

juzimanokotobawa juzimanokotobaq¹de , jamagucisaNwa
湯島のことばは 湯島のことばで 山口さんは

e: qzu¹ra¹ sorede , o¹: kawako¹tobaqteju: to ,
良いんだろう それで 大川ことばっていうと

juzimanoma:sino kotobaga, o:kawakotoba¹da¹ka,
湯島あたりの ことばが 大川ことばなのか (どうか),

sa¹kanokami¹qteju:¹no¹ga a¹ruqdaga, sa¹ka¹nokaminoko-
坂ノ上っていう所が あるが (それなら) 坂ノ上のこ

toba¹wa¹ do¹:ju:kotoba¹daka, ko¹:siNsa¹Nnidemo kite
とばは どういうことば (ということになる) か; 庚申請にでも 来て

jaq¹teikja: e:¹waja soiqzja¹: kimi¹: na¹:
やって行けば 良いよ それでは 君 なあ

Y ko¹:siNsaNwa ma¹: zju:icigacu, i¹cugoroN na¹rudaN,
庚申請は まあ 十一月 いつ頃に なるの?

na¹ruda¹ne¹:, ko¹Ndowa
なるんだね 今度は

B ni¹ka¹gecuni iqpe¹Ndade, ko¹naida jaqtabaqka¹dade,
二ヶ月に 一度だから, このあいだ やったばかりだから

e:to, ra¹i¹gecuno, zjana¹i
え>と 来月の じゃない?

A ra¹igecuN naruqzu¹ra¹na¹:
来月に なるんだろうな

B ra¹i¹gecuno ikuNci, saru¹nohiqda¹na¹:
来月の 幾日 申の日だな

Y to¹baito¹ruzjana¹i, to¹basite¹ne¹:, ne¹Nni
とばしてるんじゃない? とばしてね 年に

ni¹ka¹idaka soko¹ratokaqte¹ne
二回か そこらとかってね

B so:¹qzjanai¹da
そうじゃないよ

A cigau¹jo, keqkjoku¹ja so¹nohiwa ko:¹siNsaN¹toju:
ちがうよ 結局ね その日は 庚申請という

hiwaja omae, i¹cine¹Nni na¹nako¹:siN a¹rutokito,
日はね お前 一年に 七回 あるときと

roq¹kaia¹rutokito¹ , ki¹maqte¹rudade¹ , ko¹:¹siNsaNto¹
六回あるときと 決ってるんだから 庚申講と

ju:hiwa
いう日は

B ko¹orjo: mi¹rja: waka¹ra: , ka¹noe¹sa¹ru
これを みれば わかるよ かのえさる

A ko¹:siNsaNtoju:wa ano: , ki¹mja: wa¹ka¹ide
庚申講というのは あの 君は 若いから

si¹rano¹:zuraga ka¹noesa¹ruqteju:higa a¹rudade¹ja ,
知らないだろうが かのえさるっていう日が あるんだからね

ka¹noesa¹rugtejuja , ro¹kuzju:iciNci¹meni iq¹pe¹Nsika
かのえさるって云えば 六十一日に 一度しか

kono¹:toki ko¹rega inu
来ない時 これが いぬ

B so¹notoki¹nja: maq¹taku¹ sono naNda¹na¹: koN¹da
その時には まったく その 何だが 今度

do¹ko¹ja to:ja
どこ? トーヤ (頭屋)

A u¹raga u¹ci¹ka , cju:be:daqcju:ko¹tosa
おれの方の (トーヤの) 家か、 忠兵衛だってことさ

B cju:be:zja ma¹zui
忠兵衛じゃ まずい

A da¹me¹qda
だめだ

B soide si¹taqka:de ku¹mi¹de , iq¹ke¹Nmo aruga
それで 下の方で 組で 幾軒も あるが

A hi¹ciza
七左衛門の家

B hi¹ciza
ヒチザ

A korega cu¹ki¹noeno to:jada¹jo
 これが (不明...次の) トーヤだよ

B hi¹na¹taqdemo jaruzura¹ka
 日向でも やるのだろうか

A hi¹na¹qdemo ja¹ru¹sa, a¹rja: dokoqdemo¹ jaru¹qda
 日向でも やるさ あれは どこでも やるよ

B koq¹da hicizae moqteku¹ka, to¹:jano ho¹:ka
 今度は ヒチザへ 持っていくか 頭屋の 方か

A so¹:zjanaidajo, ciu¹:be:da¹jo
 そうじゃないよ 忠兵衛だよ

B ija¹ cju¹:be:to hicizata: cigau¹ka, so¹nocugja:
 いや 忠兵衛と ヒチザとは ちがうか、 その次は (不明)

A ko¹reqda, ko¹re jo¹:kaqda, hi¹cigacujo:ka¹qda,
 これだ これ 八日だ 七月八日だ

a¹re, hi¹cigacujo:kadaga korja na¹ni¹ja: kjo:wa
 あれ 七月八日だが これは 何? 今日は

rokugacuzju:iqkazjanai, kjo:, i¹kuNciq¹da¹i ata:
 六月十幾日じゃない 今日(から) 今日(から) 幾日だ あとは

Y hi¹cigacu, zju:hiciNci¹de¹ne so¹rja: kjo¹:damoN
 七月 十七日でね それは 今日だもの

A a, kore¹ga so¹:ka, hi¹ci¹gacuzju:hiciNcide
 あ、これが そうか 七月十七日で

ko¹rewaja¹:
 これは?

Y so¹rja: kju¹:no hicigacuhiciNci¹de¹ne, ha¹cigacu
 それは 旧暦の 七月七日でね 八月八日

jo:kada¹:
 だよ

A ka¹noesaru, ko¹nohiq¹da¹na¹:
 かのえさる この日だね

Y ha¹cigacujo:ka
八月八日

A zja¹ba¹kani, konoaidaga na¹iq¹ke¹na¹ː, arasuka¹-
じゃ ばかに このあいだが なかったな あるものか

na¹ː ˈarijo¹:wana¹i¹wa
ありようはないよ

B cju¹:be:zja¹ mazuina¹ː, ho¹kani to¹:ja: ˈdo¹koqzura
忠兵衛では まずいな ほかに トーヤは どころろう

i¹kukumika
幾組か (あるはずだから, の意)

A cju¹:be:qka¹rana¹ː, o¹:ˈo, ho¹kano¹ to:ja¹ka¹ː
忠兵衛からな おゝ 他の トーヤか

so¹rja: micu¹zi:raga kumimo arja: kimu, kimurato
それは 光爺達の 組も あれは キム 木村と

micu¹zito iqsjo¹da¹kaja:
光爺と 一緒なのか

B jo¹ku¹ iqkunai
よく 一区内

A ka¹mi¹juzima doka¹ja¹ː
上湯島は どこだ

C ha¹ci¹be:da¹jo ko¹qda¹ː
八兵衛だよ 今度は

B koNda: haci¹be:da¹jo
今度は 八兵衛だよ

A ha¹ci¹be:taramo arja: koto¹bamo na¹o¹icja:
八兵衛太なども あれは ことばも 直しては

sjaberie¹no:ˈna¹ː
しゃべることができないな

B na¹o¹icja: sjaberieno¹:ga anosita:, ha¹zi¹mekuNga
直しては しゃべることができないが あの人は 一君が

wa¹riai kotoba¹ga kire¹:¹na¹:
 わりあい ことばが きれいだな

C ha¹ci¹be:saN¹wa¹ koto¹ba kire¹:na¹
 八兵衛さんは ことばが きれいだ

A ano: hu¹cu¹:no sju:to sjabeqte¹mo¹
 あのう ふつうの 人と シャベっても

C u:N sjabe¹ruqtemo¹na¹
 うん シャベるといってもね

A ¹do¹:sitezura
 どうしてだろう

C ¹naNsjo¹ ki¹re:na¹na: anosita¹: , jaqpa¹ri ju¹we¹no¹
 とにかく きれいだな あの人は やっぱり 上の

sju:to nanisiruga , ¹jo¹esju:ga de , ¹de¹iriga
 人と 何するのが 良い階層の人が 出入りが

hagesi¹:moNdade naN¹zu¹ra ,
 はげしいので 何だろう

A ¹ho:da¹ga ko¹:ni: o¹kasi¹:qda¹na¹: , u¹ra¹ga ci:to¹
 だけど 幸兄 おかしいな 俺などが 少し

koto¹bademo kaete cukauto , o¹kasi¹:qdana¹: ano:
 ことばでも 変えて 使うと おかしいんだな あのう

ki¹kusi¹to¹mo¹:
 聞く人も

C uN ho¹:da¹jo¹
 うん そうだよ

A a¹Nnana ano , ¹da¹ikuga a¹Nna , sono ¹me¹:koto ,
 あんな あのう 大工が あんな その 上品なこと,

me¹:ko¹tobamadeqdemo¹na¹idaga ko: , ¹i¹cumo
 上品なことばと違いかなくても こう いつも

cukaqte¹no:jo:na koto: cukauto¹na¹: omowa , o¹kasiku¹
 使っていないような ことを 使うとな 思わ おかしく

omowa¹reruqda¹na , o¹mo¹imo siru¹ra ta¹sikani , mata
思われるんだな 思いも するだろう たしかに また

o¹mowareso¹:na kiga¹sirumoNde ¹si:¹eno¹:qda , ¹omo¹imo
思われそうな 気がするの で 使うことができないのだ 思いも

¹siruda¹i¹na¹ mata¹: namaiki¹ni , cukaqtakoto¹mo
するんだよな また なまいきに 使ったことも

na¹ijo:na kotoba¹: cuka¹auto
ないような ことばを 使うと

C wa¹siN cukaqte¹mo korega ¹be¹qcjabecjaju:
私が 使っても これが けなす

A o¹takuno mocio to¹qta , da¹itai nitajo:na
お宅の 町を (不 明) 大体 似たような

kotoba¹zura koko¹mo
ことばだろう ことも (山口に向けて)

Y do¹ko¹no , do¹koga
どこの? どこが?

A ko¹kono , u¹ra , u¹ra , o¹re¹no kotoba¹sa
ここの 俺達 うの 俺の ことばさ

Y ¹so¹:so¹:
そうそう

A ni¹te¹rura
似てるだろう

Y ko¹noheNno kotoba¹da¹ne
この辺の ことばがね

A omo¹:dagasa ano: , a¹raino ho:to , iqs¹joguraizura
思うんだがさ あのう, 新居の 方と 一緒ぐらいだろう

Y ni¹tora¹N¹ne
似てないね

A ci¹gau¹:
違うか

B 「soida¹qte , 「soida¹qte omae , 「ki¹mino jama¹gucisa-
 だけど だけど おまえ 君の 山口さんの

Nno ju:koto¹mo hoNnani
 いうことも そんなに

C 「ko:ju¹:sju:wa ja:
 こういう人は

Y na¹Ntojuqte¹mo jaqpa¹ri si¹zo:ka¹keNdamo¹Nde
 何といっても やっぱり 静岡県だから

A 「kire¹:nja: na¹izjanai¹ka , omaeno kotoba¹daq¹te (笑い)
 きれいじゃ ないじゃないか お前 (山口) のことばだって

(2)

A 「a¹: 「so:ju:imi¹no koto¹: ju: , qteju:nja¹: jaqpa¹-
 あゝ そういう意味の ことを いう っていうには やっぱり

ri 「saka¹nacurino hanasjo: sirunara sa¹ka¹nacuri no
 魚釣りの 話を するなら 魚釣りの

ano ,
 あの

Y 「so¹:so¹:so¹:
 そうそう

A hu¹ze:ga a¹ruwakeda¹na:¹ hanasjo¹: sirusito¹nja¹: ,
 風情が あるわけだな 話を する人には、

i¹no:sisio bucu¹nja: i¹no:sisio bu¹cutokino, ano
 いのししを 打つには いのししを 打つときの あの

ko:sita¹qke a:sita¹qkeq¹cju: jacuno, ¹sorjo:, ano
 こうしたっけ あゝしたっけっていう やつの それを あの

¹hanasi¹wo, no, kaqko:o ¹mi:nagara ki:te¹iruto,
 話を, の, 恰好を 見ながら 聞いていると

¹te¹:pudake ki:ta¹qtazja: ¹uN¹to cigaude¹na¹:
 テープだけ 聞いたのでは うんと ちがうからな

tasikani, ¹orja: naNdaqke¹jo kona:da, ¹sigotoni
 たしかに 俺は 何だっけよ このあいだ 仕事に

iqta¹qkega ore neruto i¹biki¹o kakuqda¹jo,
 行ったけど おれ 寝ると いびきを かくんだよ,

so:sitatokoroga a¹sitano¹a¹sa
 そうしたところが あしたの朝

C do:mo ibikjo:¹wa kakuqdana¹:
 どうも いびきを かくんだな

A ¹da¹rega
 誰が

C ¹zicu¹ni:
 実兄 (実雄さん—— の意)

A ¹i¹cu ka¹itaqke
 いつ かいたっけ

C ano¹ja¹: teNrikjo:e iqtatokini ibikjo: ka¹itamoqdaq-
 あのね 天理教へ 行ったときに いびきを かいたの

de otaniba¹:ga, ¹a: jakamasi¹: konoziNzi¹:
 で おたに婆が あゝ やかましい この爺

ibiki¹baqka kakja¹:garu¹naNte korede hiq¹pasaqde
 いびきばかり かきやがるなんて これで 鉄んで

kurera¹:naNte, ¹seNdakuba¹samiga arudaqke¹:de,
 やろうなんて 洗濯ばさみが あったので

sorede ha¹sa¹muqte iwasitadaqkega, so:sita¹ra
それで 鉄むって 云った (不鮮明) そうしたら

u:N¹te, sore¹ga wa¹kaqtajo¹:ni jametamo¹Ndade,
ううんって それが わかったように やめたので

ziNzi¹: wa¹kaqtakasubi¹: ja¹meta:¹naNte juqteite
爺 わかったのか (不鮮明) やめたなんて 云っていて

A ¹soi¹daqkega ¹so¹rega okasi¹:dajo ¹ko¹naidana¹:,
だけど それが おかしいんだよ このあいだな

¹maci¹: sigotoni iqtana¹:, ho:site ¹a¹samesjo¹:,
町へ 仕事に 行ってな そして 朝飯を

¹daikusaN mesjo¹: kuqte kurjo:ja¹:qte ju:mo¹Nde
大工さん めしを 食って くれって いうので

mesjo¹:site, ¹so:¹sitatokoroga, ¹naN¹daka kono
飯をくって そうしたところが 何だか この

ci¹kuo¹Nkiomitainamonoga curuite ko: a¹ruda¹ze¹
蓄音機みたいなものが 吊して こう あるんだぜ,

so:site, so:sitatokoroga, a¹re: ima¹ni hazimaqte
そうして そうしたところが あれ 今に 始まって

kuruzo¹qte, ¹ko:ju:da¹jo, so:sitatokoroga,
くるぞって こういうんだよ そうしたところが

u:Nu:N¹te¹ ibiki¹o, kakidaitaqda¹ja, na¹N¹de
ううんうんって いびきを かきだしたんだ 何だ

tomoqtarana¹:, asokono wa¹ka¹isju:ga¹na:, a¹Nmari¹
と思ったらな あそこの 若い がな あんまり

ibiki¹o kakumoNde:¹na: si¹tono are:¹na: ¹te¹:punona:
いびきを かくのでな 人の あれへな テープのな

naNdaka ¹do:¹dakasiruto ¹ha¹irudaq¹te¹na¹:, ¹soreo¹
何だか どうかすると 入るんだったな それを

ho¹re oreno makura¹motoi ¹woi¹tarasi:da¹i, ¹soreo¹
それ 俺の 枕もとへ 置いたらしいんだ それを

ore mesjo¹: kuqteirutoki¹ni, o¹reno i¹bikio¹na¹:
おれ 飯を 食べているときに 俺の いびきをな

so¹redeite, naNdaka, ne¹goto:mo juqtarisitao⁽⁴⁾
それでいて 何だか 寝言も 云ったりしたのを

¹zeNbu te¹:pue iretaq¹te¹sa, ¹ho:sitei¹tena¹: orja:,
ぜんぶ テープへ 入れたってさ そうしていてな おれは

wa¹ra¹waretaqkega¹na, ¹hoi¹daqkega soida¹de ano:,
笑われたけどな それだけれど それでいて あのう

¹si¹rano:jo:¹ni¹ hore¹na¹:, ano ¹de¹kirudamoNdade
知らぬように それね あの できるのだから

so:ju¹:hu:na meNdemo joidaga¹na¹: tomoqte ima
そういうふうな 方法でも 良いんだがな と思って 今

jama¹guqcaNni so:iqtaqkega jaqpari¹ i¹ma, jama¹guq-
山口さんに そういったんだけど やっぱり 今 山口

caNni kike¹ba jaq¹pa¹si soremo ¹i¹maju:to:¹ri, kao:
さんに 聞けば やっぱり それも 今いう通り 顔を

mi¹nagara hanasjo: kiku¹qteju¹:, juwanja ¹i¹miga-
みながら 話を 聞くんていう いわなければ 意味が

¹na¹:, wakarano¹:demo aredade
ね 分らないのでも あれだから

B ¹hi¹natano saku¹taqcano hanasi¹wa, zeNzeN ko¹toba¹-
日向の 作辰の 話は ぜんぜん ことば

nja naq¹cja¹ inaiqde, na¹rana¹ikamo sirenai¹na
には なって いないから, ならないかも 知れないな

A ko¹to¹baNna¹qte ino:q¹te, ko¹to¹baNnaqte iro¹sa
ことばになって いないって ことばになって いるさ

jaqpa¹ri ano:
やっぱり あの

B sono:, cu¹maranai sono arena¹Nda¹ze, si¹to¹nokoto:
その つまらない その あれなんだけ 人のことを

(5)
i¹ko¹zika¹dano
イコジカだの

A i¹ko¹zika
イコジカ

B danoqte¹sa, saq¹pa¹ri sono hu¹cu¹:no arede,
(不 明) だのってさ さっぱり その ふつうの あれで

imisi¹na¹ikoto¹: ju:da¹zo¹ anosito¹wa, zeN¹zeN¹
意味しないことを いうんだぞ あの人は ぜんぜん

A ¹so¹:ju:koto¹ba¹ hasama¹ruq¹da¹na¹:
そういうことばが 缺まるんだな

B saku¹tacuqteju: sitonoju:¹wa, ho¹toNdo so¹:ju:ko¹to¹:
作展っていう 人のいうことは ほとんど そういうことを

ju:¹dade, nanisiro, wa¹kara¹naiko¹to¹: ju:wa¹na
いうんだから、 なにしろ わからないことを いうよな

C se¹nakano magaqtasito¹: i¹ko¹zikaqte ju:da
背中の中 曲った人を イコジカって いうのだ

B ¹sorja: ju:qda¹na
それは いうね

A i¹kozikaqte ju:mo¹no: siqt¹ru kimja¹:
イコジカって いうものを 知ってるか 君は

Y sira¹N
知らない

A ¹zja: hanasini narano¹:wa¹na¹: jaqpa¹ri
では 話に ならないな やっぱり

B ¹sorja: so:daga¹sa, ma¹gaqte ino¹:qtemo sito¹nokoto:
それは そうだけど 曲って いなくても 人のことを

meta, i¹ko¹zika¹dano, ¹sjo¹Ngaridano iroiro so:ju:-
むやみに イコジカだの ションガリだの いろいろ そういう

ko¹to: ¹ju:¹qda¹jo, sono ¹sakutacu¹qte
ことを いうんだよ その 作展って

A 「o: ho:da sjoNgamenaNte ju:na: sito:na:,
 おゝ そうだ ションガメなんて いうな 人をな

「sjoNgamedanaNte
 ションガメなんて

B so「no, ku「sa「jaro:dano, a「ota「giqcjuqtari
 その クサヤローだの アオタギって云ったり

C a「otagiqzuraqdanoq「cja: ju:de wa「kara「no:「da huN「to:
 アオタギッスラだのって いうから わからないよ 本当に

B soNna 「heNnakoto: ju:qda「jo, sakutacu「qte ju:sito-
 そんな へんなことを いうんだよ 作辰って いう人

「wa, ko: hu「cu:ni, 「to: rujo:nakotowa, 「taN「to
 は こう ふうくに 通るようなことは 沢山

juwana「i zo
 いわないぞ

Y sono sa「ku「tacuqte ju:na 「do:ju:, 「zi「wa 「do:ju:-
 その 作辰って いうのは どういう 字は どういう

zi「o ka「kudai「ne
 字を 書くんだろ

A sa「kutacu「qtesa, 「ju:sito「mo iqtai macigaqteiruda-
 作辰ってさ いう人も いったい まちがっているんだ

「na:, sa「kutacu「naNte ju:sitoqzja「na「idaga
 な 作辰なんて いう人ではないのだが

jaqpari, sa「ku「emono: 「tacu「qteju sito「damoNdaina:
 やっぱり 作右衛門の 辰っていう 人だからな

sakue「moN
 作右衛門

Y u「ciga sakue「moNde:, na「mae「ga
 家が 作右衛門で 名前が?

A tacu「o
 辰男

B ta¹cuo¹:
辰男

A ta¹cuo¹:qda¹ja:
タツオーだよ

B soreqde , sorja: , sa¹to:ta¹cu¹oqteju:da¹jo
それで それは 佐藤辰男っていうんだよ

Y hoNto:wa
本当は

B hoNto:¹wa
本当は

B sorekara so¹reo , sa¹to:ta¹cuo¹:naNte ju:sita: ¹na¹-
それから それを 佐藤辰男なんて いう人は ない

idajo , sa¹kutacu sakutacu¹qte ju:damoNda¹de
のだよ 作辰 作辰って いうんだから

A ¹hoidaga arja , ¹do:¹kaNta¹cutomo juwa¹:
だけど あれは ドーカン辰とも いうよ

B uN ¹do:¹kaNta¹cutomo ju:qda¹na¹:
うん ドーカン辰とも いうんだな

Y do:kaNtacu
ドーカン辰

C ano: ¹ie:¹no ano wakata¹ga , ¹do:kaNbuci¹qte
あの 家の あの 傍が ドーカン淵って

ju:daqkede¹na¹:
いったからね

A a: ¹do:kaNbuci¹qteju: , ano , kawano hu¹ci¹ga
あゝ ドーカン淵っていう あの 川の 淵が

arumo¹Ndade , kawarani hu¹ciga arumo¹Ndade ,
あるので 川原に 淵が あるので

¹sokoni so¹bani irumoNde: ¹do:¹kaNta¹cuqte ju:da
そこに そばに いるので ドーカン辰って いうんだ

Y so¹nosita¹: , i¹kucuguraino sito¹daine¹:
その人は いくつぐらいの 人だろう

A ¹ko:ni:ra¹to iqsjoqda¹na
幸友達と 一緒だな

B do¹:kju:no.....¹daqke¹na¹:
同級の (不 明) だったな

Y so¹rja: , so¹rekoso kono ozisaNga iqte hanasjo¹:
それは それこそ この おじさんが 行って 話を

sitekureruto e¹:daN¹ne¹:
してくれると 良いんですがね

B so¹rja omosiro¹ika sonosito¹ga
それは おもしろいか その人が

Y o¹mosiroso¹:zja: na¹ika¹ne¹:
おもしろそうでは ないか

B omosiroi¹nja: omosiro¹ida , tonikaku ¹o:ka¹:ici¹baNqte
おもしろいには おもしろいよ とにかく 大川一番と

- ju:sito¹qda:
いう人だ

Y so¹nosito¹ga aratama¹ruqte ju:sito¹ka¹ne
その人が 改たまるって いう人かね

B a¹ratamarana¹idajo
改たまらないよ

Y na¹ruhodo
なるほど

B ko¹to¹banantejuja ¹zeNzeN ¹kaeena¹ida
ことばなどといったら ぜんぜん かえることができないのだ

Y so¹nosito¹ga , so¹nosito¹no tokoroene¹: , iq¹peN
その人が その人の ところへ 一度

hanasi¹o sitekureru¹to¹ arigata¹idakedo¹ne
話を してくれると ありがたいんですけどね

- B sjabe¹runo , so:ro:nozja¹na¹ida soregamata
しゃべるの (中途不明) そうろう ではないのだ それがまた
- A arede mi¹cuzi¹:ramo koto¹ba: kaeru¹ka¹ja¹:
あれで 光爺らも ことばを かえるかしら
- B kaeenai
かえることができない
- C kaenai¹na
かえないな
- A ima¹no konozzi:saNna¹: , konosito¹no oja¹dagasa¹:
今の この爺さんな この人の 親だがさ
- B kaenai¹jo
かえないよ
- A aremo , ozi¹:cjaNdaga konosito¹no , o¹: , bi¹:ruo
あれも おじいちゃんだが この人の (以下, 子供に) お ビールを
- no¹Nda , joq¹para¹u¹ze , ko¹wai¹zo¹ omote¹: de¹ruto
飲んだ よっぱらうぜ 恐いぞ 表へ 出ると
- ko¹rokerude
ところふから
- B bi¹:ruo no¹mudade bi¹:ruo akjo:qte , ju:bemo
ビールを 飲むんだから ビールを あけよって 昨夜も
- no¹Ndagda , i¹kurademo no¹mu
飲んだよ いくらでも 飲む
- Cno¹muqda:ja, cu¹qdara, cu¹ldara ci¹:qto cu¹idade
(不 明) 飲むんだよ (次の云い損じ) ついだら 少し ついだから
- waru¹iqte cu¹nekozi¹reteru , iq¹pai¹ cuganja¹:
いけないって すねてる いっぱい つがねば
- B iq¹pai cugano:qte okoqtejaga¹ru
いっぱい つながって 怒ってやがる
- 子供 iq¹paino¹: do¹koni aru:
いっぱいのは どこに ある

B
(不 明)

iq¹pa¹no¹: do¹koni aru¹ija¹:
いっぱいなのだ どこに あるの

A 「do¹:sirukana¹: hoizja: ko¹Nja ano: kimja: sono: ,
どうするかな それでは 今夜 あのう 君は その

sa¹ka¹nokami: iqte jo¹:o sirunara sa¹kanokamide
坂ノ上へ 行って 用を するなら 坂ノ上で

jaqte¹keja¹:
やって行けよ

Y 「so¹:ne¹: sa¹ka¹nokamide
そうですね 坂ノ上で

A 「jaqte¹qte¹sa¹: keq¹kjoku , 「so:site , 「mata ,
やって行ってさ 結局 そうして また

arata¹me¹te kurujo:「ni¹ sjo:「ja:
改めて くるように しなさい

Y 「da¹kedo ha¹cigacujo:ka¹ga
だけど 八月八日が

A u¹N jo:kaga bo , ano: , 「ho:da¹ga so¹rewa naNdana¹:
うん 八日が ボ、 あのう、 だけど それは 何だなあ

ano:
あのう

C 「boNga kasa¹narude he:qzja¹: , 「ma:je¹:torukamo
盆が 重なるから それでは 前に日取りをするかも

sire¹no: hacigacuboNna¹ra , tana: , ko:siNsaNni
知れない 八月盆なら 棚を 庚申講に

areqzjanai tana: huta:cu kosiraerutokaqcja:
あれじゃない 棚を ふた 作るとかって

hacigacu¹boN¹ma¹e: toqcja: siruq¹zja¹nai
八月盆前に (日取りを) とって するんじゃない?

A 「ko:siruna¹ ra taiheNdemo , do¹:nisizuga jo¹ ikana¹:
 こうするなら たいへんでも どういう風にするのが 良いかな

keqkjoku , u¹ ragaho¹:wa cju¹:be¹:dade da¹ me¹ dade ,
 結局 俺達の方は 忠兵衛だから だめだから

ha¹ cibe¹:tadani¹ qdemo , dame¹ tano¹ Ndeq¹cju:nomo
 八兵衛忠 (タダ) にでも, だめ 頼んでっていうのも

mazu¹ ide da¹ me¹ da¹ na¹:
 まずいから だめだな

C mo¹ rokoza:..... hicigacuno ku¹ reni siruqzu¹ ra
 諸子沢 七月の 末に するんだろう

sore¹ wa
 それは

A ta¹ nomi¹qko¹:cju: ko¹ ta: dekino:da de , jo¹ i qda na¹:
 頼まないでという ことは できないのだから, 良いんだな

ano: jaqpa¹ ri ima: konosi¹ to ja¹ ma gucisaNga
 あのう やっぱり 今 この人 山口さんが

ju:to¹:zi a¹ rute¹:do hana¹ ite kuru¹ to ko: ano: ,
 いう通り あるていど 話して くると とう あのう

naNda : ne¹ cu¹ ga deteku¹ ruto be¹ cuni¹ ano: ,
 なんだ 熱が 出てくると 別に あの

ja¹ ma gucisaNga iruqde¹ toka , ma¹ ci nositoga iruqde -
 山口さんが いるからとか 町の人が いるから

tokaqtejuide na¹ ku naq¹ te ku¹ rude na¹: ano: ha: ,
 とかっていうので なくなって くるからな あのう もう

hanasikoNdeku¹ ruto soidade , e¹: qda na¹:
 話しこんでくると それだから 良いんだな

(3)

A naNdana¹ : , so:siru¹ da¹ na¹ : wa¹ rui¹ qkena¹ : korja
何だな そうするんだ 悪かったな こりゃ

ko:ni¹ : , sewa¹ : kake¹ te
幸兄 世話を かけて

B mi¹ cuo¹ ga naNsjo¹ omosiro¹ iga¹ na¹ : , jaqpa micuowa¹
光雄が とにかく おもしろいがな やっぱり 光雄は

dameda¹ na¹ :
だめだな

A ke¹ : kaisiru¹ ka
警戒するか

B u¹ cikina¹ jacu¹ dade¹ arja¹
内気な やつだから あれは

A a¹ rja¹ : so¹ :iqte¹ , ba¹ : kani¹ ke¹ :kaino¹ cujo¹ ijo:na¹
あれは そういって, ばかに 警戒の 強いような

jaro:dade¹ , da¹ me¹ qda¹ aNnamona¹ , kino¹ ko¹ cu¹ : i¹
野郎だから だめだ あんな者は 気の 小さい

jaro:de¹ na¹ :
野郎でな

B u¹ N , ki¹ wa¹ ko¹ cui¹ jo¹
うん 気は 小さいよ

A do¹ : mo¹ arewa¹ kju¹ :kucuqde¹ da¹ me¹ na¹ joro:da¹
どうも あれは 窮屈で だめな 野郎だ

B ma¹ zu¹ ki¹ wa¹ kocui¹ jo¹ micuo¹ wa¹ , kocu¹inja¹ :
まず 気は 小さいよ 光雄は, 小さいことは

Y 「do¹:mo ozisaN su¹imase¹Ndesita¹ne¹ hoNtoni
 どうも おじさん すみませんでしたね 本当に

B ko¹:¹siNsaNno tokini do¹koga to¹:jadaka¹na¹:
 庚申講の 時に どころが トーヤだろうかな

A simoq¹de¹ka: , mazu ha¹cibe¹:na¹ra¹ tanomare¹ruga ,
 シモでか まず 八兵衛なら 頼めるが

oreno tanomuNnja: , 「cju:be¹:daqte¹mo , ta¹nomareno:-
 おれの 頼むのには 忠兵衛だって 頼めない

kota:naiga , hi¹ci¹zanoho¹:ga tanomijoiga , 「zi¹roma-
 ことはないが、 七左右衛門の方が 頼みよいが 次郎正

saja , 「cju¹:be: dano goro¹:naNte ju:「jo¹ri¹ka ,
 や 忠兵衛だの 五郎などと いうより

hi¹ci¹zaka
 七左右衛門かな

B 「kane¹icira¹: dokono kumiqzura¹i
 カネイチ達は どの 組だろう

A dokono kumiqdaka¹sa arega 「micu¹zi:ni i¹ma 「ki:te-
 どの 組かな あれが、 光爺に 今 きいて

mi¹ruto jφ:daqkega
 みると よかったが

B na¹ni ki:temi¹ruto e¹:q¹ke¹na¹:
 なに (それを——の意) きいてみると よかったな

A a¹re o:ze¹:zura hoiqda¹ga , a¹rja¹ go¹rokuniNmo¹
 あれ 多勢だろう だけど、 あれは 五、六人も

hi¹cihacini¹Nmo , zju¹:niNmo¹ a¹rura
 七、八人も 十人も あるだろう

B e:kaN o:ze¹:qda¹ze arja
 だいぶ 多勢だぜ あれは

A 「ko:ni: rano kumja: ni¹saNniNzu¹ra
 幸兄達の 組は 二、三人だろう

B 「i¹ma wa hici¹niNda¹jo
 今 (不 明) は 七人だよ

A 「soizja: mata hueta¹qdana: , mataqte iqpeN ja¹meta-
 それでは また 増えたんだな 又って 一ぺん やめた

sito¹ga aqtaqke¹na¹: , soNnakota: na¹i¹ka
 人が あったけな そんなことは ないか

B jametaqkega
 やめたっけが

A huq¹kacusita¹ka mata
 復活したか また

B so¹rja: ano: , as asokoga¹ kona¹idaqkeda¹jo
 それは あの あそこが 来なかったよ

A 「se:si
 セーシ (人名)

B 「se:siwa hajaida¹ga na: , ho kano sju:wa mi na
 セーシは 早かったな 他の 衆は みな

roku¹buqda
 ロクブ (不明) だ

A 「dokoqkara hacibe: iku¹ja , maenja: doko¹daqke
 どこから 八兵衛へ 行くの, 前には どこだった?

B 「se:ni:
 セー兄

A 「a: se:ni:kara aqci o kita
 あゝ セー兄から あっちを (まわって) きた

B sosite koqci: ku:qto ma:qte ku ruwake qda: ,
 そして こっちへ ぐるっと まわって くるわけだ

soide mo o mosiroi wa hi nataqda na
 それでも おもしろいのは 日向だな

A to , ho:qda , hoide mo u ra ga kumi mo jø:
 (不 明) と, そうだ, それでも おれ達の 組も 良い

su¹ki¹na reNcju:ga
すぎな 連中が

C ici¹ni:wa omosiro¹ira
市兄は おもしろいだろう

A o¹ku¹meNnasini sjabe¹qte kureru
臆面なしで シャベって くれる

B hoiqdaga hi¹natano kiriqku¹i⁽⁶⁾ kumio a¹cume¹te
だけど 日向の キリックイ 組を あつめて

mjo¹: mazu omosiro¹ini
みよ まず おもしろいから

C arja: o¹mosirokaN¹na, ¹sige¹ziramo omosiro¹idaga
あれは おもしろいだろう シゲジなども おもしろいのだが

B do:, do¹:kaNtacudano sige¹zidano cju¹:be:da¹no
ドーカン辰だの シゲジだの 忠兵衛だの

A mu¹razimo ho¹:ka
村治も そうか

B murazidano, ma¹zu do¹:kaNtacu, maq¹taku omosiro¹-
村治だの まず ドーカン辰 全く おもしろいん

ini ma¹zu a¹Nnana kumi¹wa nai¹na
だから まず あんな 組は ないね

A ¹hoqdaga arewa so¹Ncjo:tacimo haiqteru¹zura sore¹:
だけど あれは 村長達も 入ってるだろう それへ

B so¹Ncjo:wa¹ do¹:dakana¹:, ¹ha¹iqteruka¹mo sireno:ga
村長は どうだろう 入ってるかも しれないが

A ¹aNna¹na hitoga ¹ha¹iqteruto wariai si¹zukani
あんな 人が 入っていると わりあい 静かに

naruqda¹na¹:
なるんだな

B daga ¹so¹Ncjo:wa cju¹:kide i¹cuni nete¹rudade
だが 村長は 中風で ずっと 寝てるから

jo¹idaga so¹noma¹ta , musu¹koga¹ omosiro¹iqda:ja
 良いが そのまた 息子が おもしろいのだ

A e¹: , e¹:ga
 エー エーが

B e¹:kiciga
 エーキチが

C e¹:kiciwa omosiro¹iqcju:¹zo
 エーキチは おもしろいっていうぞ

B u¹N maq¹taku omosiro¹iqda
 うん まったく おもしろいよ

A daNna: kidoqcja¹: ino:qda
 だんなを 気取っては いないのだな

B a: daNna: kidoru , zeNzeN na¹iwa , ko¹toba¹o
 あゝ だんなを 気取るなど, ぜんぜん ないよ ことばを

nao¹ite cukaiena¹isi¹na¹ zeNzeN
 直して 使うことができないしね ぜんぜん

A a¹rja: doko¹i iqtaq¹ke gaqko:wa
 あれは どこへ 行った? 学校は

B gaq¹ko:wa sjo:ga¹qko: , sjo¹:gjo:q¹da arja:
 学校は ショー学校 商業だ あれは

A sjo¹:gjo:
 商業(高校)

B daga , ko¹to¹ba: nao¹ite cukauso¹ito¹zja:naisi ma¹zu
 だが ことばを 直して 使う人ではないし まず

korja: , zu:q¹to¹ sjabe¹qteru¹na , do¹:kaNtacurato
 これは ずうっと シャベってるな ドーカン辰達と

joi¹a¹itedamo¹no , sosite zi¹te¹Nsjase:qdano¹na¹: ,
 良い相手だもの そして 自転車セー(人名)だのな

o¹mosiro¹ida¹zo sorja maqta¹ku , a¹nokumi¹ga
 おもしろいよ それは まったく あの組が

to¹nikaku iciba¹N¹ no ojaka¹taqda:¹na¹: hi¹nata¹zja¹:
 とにかく 一番の 親方だな 日向では

wa¹riai koqci¹: ku¹ruqteju:to, ano:, koto¹ba¹ga
 わりあい こっちむ 来るといふと あのう ことばが

jo¹ida¹zo, o¹bo¹:noho:ie kuruto
 良いんだよ オボーの方へ くと

A ko¹toba¹: kaeruka si¹Npe:, kjokucjo:, kjo¹kucjo:wa
 ことばを かえるか 新平 局長 局長は

juitaiko¹to: ju:¹ra arja¹:, koto¹ba¹demo kaeno¹:ra
 云いたいことを 云うだろう あれは ことばでも 変えないだろう

aria: arja :
 あれは あれは

B ¹kae¹na¹i, ¹ki¹Npe:iano, a¹sokora¹nosju:wa hi¹kaku-
 変えない 金平だの あそこの衆は 比較的

te¹ki¹ ho¹ida¹ga ano: aNnana do¹:kaNnomitai¹na
 だけど あのう あんな ドーカン辰みたいな

koto:ju: sito¹wa nai¹na¹:
 ことをいう 人は ないな

C da¹Nnabu¹qteruda¹:ja
 だんなぶってるんだ

B hi¹nata¹wa naNsjo
 日向は なにしる

A ¹go¹he:ta¹ka
 ゴヘータ (家号) か

B u¹N, ¹kiri¹qkui kumida¹jo arja ¹kumi¹qde jarude-
 うん キリックイ 組だよ あれは 組で やるから

¹na¹: ho¹rja: asoka :
 な それは あそこは

A a ho:¹ka, ¹u¹N ¹jφ:¹wa u¹ra¹Nho:mitaini, ka¹miju-
 あ そうか うん 良いよ 俺の方みたいに 上湯

zima o¹:kumidaga , u¹ra¹Nho:wa tobi¹tobidade
大きい組だが 俺の方は とびとびだから

toq¹temo¹ kanaNze ¹cju¹:be:ni hici¹za , ziromasa ,
とても 敵わんよ 忠兵衛に 七左右衛門 次郎正

soide ¹si¹ratakaminoru , daqkegana¹ :
それで シラタカミノル だったがな

C wa¹riaini to¹bitobiqda¹na¹ :
わりあいにとびとびだな

A soide ura¹gatoko
それで 俺の所

C huN¹to¹ :
本当

A a¹rewa¹na ⁽⁷⁾ko¹do:cuqtena¹ : , ko¹do:qte orja: ¹ci:-
あれはな 古堂っていった コドーって 俺は 小

sa¹i do¹:dakatomoqtara ¹ho¹:zjanaida¹jo , hu¹ru¹i
い 堂かと思ったら そうじゃないのだ 古い

do:¹sa , i¹nisieno¹ ko¹sa
堂さ いにしえの 「古」さ

C ¹a:so:¹ka
あ そうか

A ¹hoida¹moNdai ni¹za¹datokasa¹ : , u¹ra¹N hore koNna¹ -
それだから 仁左だとかさ 俺が それ こん

na ano: kataciN naqtaga ni¹za¹mo hu¹ru¹idaqkeqcura-
な あのう 形に なったが 仁左も 古かったのだろう

de i¹cirju:¹daqkeqcurade ura¹ kaqka¹:no arja: ,
から 一流(の財産家)だったろうから 俺の 女房の あれは

¹niza¹datoka hi¹ci¹zadatoka ¹cju¹:be:datokasa
仁左だとか 七左だとか 忠兵衛だとかさ

¹si¹make:sa , ¹to¹:lasan , sosite ¹ziro¹ : , ¹inoue¹
シマケーさ 藤太さん そして 次郎 井上

u¹mekici , sosite ʔhagjo:mo¹ hurui¹ra¹ korja ,
 梅吉 そして ハギョーも 古いだろう こりゃ

hagjo¹:tora , ʔmo:a¹to darezura ʔma¹daato itahazu¹ja¹
 ハギョートラ もうあと 誰だろう まだあと いたはずだが?

B kaNbe:ʔwa¹
 勘兵衛は?

A ʔkaNbe¹:wa ho:qzjana¹i , ʔhate¹na ʔkodo:kodo:ʔqteju:-
 勘兵衛は そうじゃない はてな 古堂古堂っていう

de ʔci:sa¹ido:no kodo:datomo¹qta¹ra , a¹no niNzu:mo¹
 から 小さい堂の コドーだと思ったら あの 人数も

sukuna¹isi , ho:ʔqzjanai ʔsorega , ʔsima¹ga nukeru ,
 少ないし そうじゃない それが シマが ぬける

hagjo¹:ga nukeru , ʔino¹ueumekiciga nukeru so:ka¹ga¹-
 ハギョーが ぬける 井上梅吉が ぬける 創価学

qkaija naNkaNo kaNke:de¹na¹: sosite hagjo¹:ʔmo¹
 会や 何かの 関係でな そして ハギョーも

so:ka¹ga¹qkaino kaNke:de nukete¹sa , ʔsosite nukete¹
 創価学会の 関係で ぬけてさ そして ぬけて

nuke¹te , taqda , goni¹Nkirini naqcjaq¹ta , ʔoreto
 ぬけて たった 五人きりに なっちゃった 俺と

cju¹:be:to ʔhici
 忠兵衛と 七

C ʔhagjo¹:mo so:kagaqkai siteiru¹ka¹
 ハギョーも 創価学会を しているか

A ʔho¹:dah¹:da , arja:ʔja¹ so:kaga¹qkai ha¹iqteruda
 そうだそうだ あれはね 創価学会 入ってるよ

korja:ja , arja: ʔi¹to: oremono , ʔi¹sjao ʔkaetemi¹-
 これはね あれは イトー 俺も 医者を 代えてみ

ruto joiqteju:kotomo aruqde , ʔi¹to: ʔka¹misaNo
 ると 良いっていうことも あるから イトー 神さまを

hiqka^{re}te mi^{ta}:cuq^{te}, o^{gi}Nne^{ga} ju:daqcjo^{wa},
代えて みたといって お銀姉さんが いうんだそうだ,

teNrikjo^{da}kedda arja:
天理教だったのだ あれは

C te^{Nrikjo}:daqke^{de}sa^{sa}:
天理教だったから

A ka^{misa}No hiqkae^{temi}ta: jo^{ijo}na:qcucqte cuqkja:
神様を 代えてみた 良いよなって いったよ

giNne^{ga}, soide so:kaga^qkaini kaeta^{qda}: soi-
銀姉が それで 創価学会に 代えたのだ だけ

daga so^{rekara} jo^{iwa}:qcucqkja: giNne^{wa}
ど それから 良いよって云った 銀姉は

C ho^{ka}:
そうか

A hiqka^{etemi}taqte, i^{sjamo} ka^{eruto} jo^{qcju}:kotoga
代えてみたって 医者も 代えろと 良いっていうことが

aruqde^{na}, aNma^{ri} hikicuzu^{ki} u^{Nga} waru^{ide},
あるからな あんまり ひきつづき 運が 悪いから

ka^{misa}N hiqka^{etemi}taqte, sositara jo^{ijo}:naq-
神様 代えてみたって そしたら 良いようだ

cuqkja:, rjo^{he}:mo kaqka^{mo} morausi^{na}, geNki-
て云った 良平も 女房も 貰うしな、 元気

ni^{mo} naqtasi, u^{Nto}na aremo u^{Nga} waruiqkeqdaⁱ,
にも なったし うんとな あれも 運が 悪かったのだ

hiqka^{ete} mitaqcjo: ka^{misa}No, sositara jo^{ijo}:-
代えて みたそうだ 神様を そしたら 良いよう

na^{qte}, so^{rja} u^{Nto} a^{soko}i ikuqcju:de^{na} oNnas-
だって そりゃ うんと あそこへ 行っていくからな 女達

ju:ga o^{renja}: iwano^{qke}, da^{re} so^{kaga}qkaiga
が 俺には いわなかった、 誰 創価学会が

asokoNtokoni , i^{no:ga}....., ^{arja}: mata hiqka^{e-}
 あそこの所に いないが (不 明), あれは また 代え

temita a^{rja}:
 てみた あれは

C ^{na:ni}: jaqtazura ko^{Nda}
 なに やったんだろう 今度は

B si^{gotono} areqda
 仕事の あれだ

A ^{mo}tono^{sa} , mu^{kasino} ho^{tokesa}Nda
 もとのさ 昔の 仏さまだ

B ^{ho}tokesaNdaqta^{da}
 仏さまだったのだ

A so:to^{:sju:}^{no}
 曹洞宗の

C so:^{ka}:
 そうか

A ^arewa^{sa:} , ^{umeni}:ga^{na}: , ^{ka}radaga waruitoki-
 あれはさ 梅兄がな 体が 悪いとき

ⁿⁱ: , so:^{kagaqkai} iretada^{de}: , sigeora^{ga}: ,
 に 創価学会へ 入れたんだから, 茂男らが,

^{so}:sitatokoroga , ^{su}gu ^{si}qdadaqke umeni:wa
 そうしたところが すぐ 死んだんだ 梅兄は

so:sitara so:kaga^{qkaino} muko:kara kiteite ore
 そうしたら 創価学会の むこうから 来ていて 俺

so:sikio site^{na}
 葬式を してな

C ^uN ^{so}:daqke^{na}
 うん そうだったな

A so:site kumi^{aisju:nimo} , do:tokako:tokasiruto
 そうして 組の衆にも どうこうすると

mata kono ozi¹:saNmitaini obacio uke¹ ruqtokaqte
また この おじい さんみたいに 罰を 受け るとかって

ju:dakedo oq¹ka¹:nainaNte, 「so:kaga¹ qkai oq¹ka¹:nai-
いうんだけど 恐いなんて 創価学会 恐い

naNte cuqkega, 「siqda, 「siqda¹ qte sore 「iNneNga
なんて 云ったが, 死んだ 死んだって それ 因縁が

a¹ rude siqdaqcju:zurade¹na¹:, ko¹ kono ozi¹:saNmitai-
あるから 死んだっていうんだろうな この おじいさんみたいに

ni o¹ba¹ci¹o uke¹ ruqte¹sa¹:, ju:ko¹ to: kikano:to,
罰を 受けるってさ いう事を 聞かないと,

「so:siteite, 「jo¹ku 「ku miaisju:ga ano, 「ko¹:deNo
そうしていて 良く 組合の衆が あの 香典を

moqteiqte, 「ke¹:kosaNga soqci¹ noho: ikuto, soqci¹-
持っていて ケーコさんが そっちの方へ 行くと そっち

noho: iq¹cja¹:, 「ke¹:kosaNni jarusito¹mo arja¹:,
の方へ 行っでは ケーコさんに やる人も 俺は

so¹ko¹de so:kaga¹ qkaino u¹kecuke¹ga soko¹i kite
そこで 創価学会の 受付が そこへ 来て

haiqteiru¹ra¹ hore, hi¹natasju:ja, 「mi¹ tocjaNciga
入っているだろう それ 日向衆や ミトちゃんの家の人

kiteite, de, 「sonosju¹:ni jaqtaqte¹mo, 「ke¹:kosa-
きていて で その衆に やったっても ケイコさん

Nni ko¹:deN jaqtakotonja na¹rano¹:qdakamo sireno:-
に 香典 やったことには ならないのかも しれない

cuq¹te, na¹gasi¹no ho:i iqte orja 「ke¹:kosaNni
といって 流し(台所)の 方へ 行って 俺は ケーコさんに

jaqte ki¹ta¹:naNteju:sju:mo eraku aq¹ke¹:na
やって きたなんていう人も 沢山 あったね

C u:N 「so¹:daqke¹na¹:
うん そうだったけな

A 「so: iqtakke ze: , 「so: kagaqkaide ze Nbo aqcubete
 そういったわけ 創価学会で ぜんぶ 集めて

「mo qtepas i rudaqcjo: naNcuqte na: , 「so reqzja:
 持っていくんだそうだ などといってね それでは

「se sjuno hitonja: 「ka waiso: nadeqcucqte
 施主の 人には 可哀想だからといって

Y do koi iku qte moqte
 どこへ 行くって? (それを) 持って

A 「so: kaga qkaino sa hoNbui iku zura , 「hu zino
 創価学会のさ 本部へ 行くんだろう, 富士の

taisekiziqdaka dokodaka osame ruzura na: arja: ,
 大石寺だか どこだか 納めるだろうな ありゃー

soide «soreqzja»: ano: «naNni mo narano: dade sono
 それで それでは あのを 何にも ならないのだから その

«se sju: no arenja: narano: qtju: tokoqde , kaq tebano
 施主の あれには ならないっていうとこで 勝手場の

ho: jananikani , «ke: kosaNga irja: soqci: koqso ri
 方やなにかに ケーコさんが いれば そっちへ こっそり

iqte , saqdasite kita naNte ju: jo: na sitomo «arujo: -
 行って 差し出して 来たなんて いうような 人も あるよう

naqke jo oraN oNnasju: ra: so: sitajo: inaqke na: ,
 だったよ 俺の家の 女は そうしたようだったな

so reqkara anosi towa so: kaga qkai ja metaga ,
 それから あの人は 創価学会 やめたが

«ko: siNsaNni mo hairano: na jametaqkiri de sono-
 庚申講に 入らないな やめたっきりで その

mama N naqcjaq ta na: , soidamo Nde kono :da
 ままに なっちゃったな それだから 来ないよ

Y ko: siNsaN ha iqtemo «so Nwa na idara: ni ne :
 庚申講に 入っても 損は ないだろうにね

A ʃoːqda , soːidaga oːra moːciqto oːra , niːNzuːo
 そうだ だけど 俺は もう少し 俺 人数を

hosiːku naqːta
 ほしくなった

B oːmosiroː iwaːnaː hoiqdemo iroironakotoː kiːtekitaː -
 おもしろいよな それでも いろいろなことを きいてきた

jacoː ːminasite sjabeː ruqdeːnaː : , ːsoidamoː Ndade
 やつを 皆して しゃべるからな それだから

aːremoː waːrukaː :naiːjo , ːkoːjuːkotoː ga aqtaqkeː qte
 あれも わるくはないよ とういうことが あったって

juːkotoo
 いうことを

Y soide hiːtoː cu anoː , kiːkitaideː suganeː : , ːjoː ku
 それで ひとつ あのう 聞きたいんですが よく

anoː iːkaː wano hoːdewa anoː , eːto ːdaː resoreni ,
 あのう 井川の 方では あのう えゝと 誰それに

naːNka , eːto siːcjaː : ikaNːto juːtoː kinineː : , maː :
 何か えゝと しては いけないと いう時にね まあ

taːtoː eba naːku , koːdomonara kodomoni , naːkunaː qte
 たとえば 泣く , 子供なら 子供に 泣くなって

juːkotoː ːneː : , tejuːkotoː : naːisoː qte juːhuː :ni
 いうことをね っ ていうことを ナイソって いうふうに

maː : , iːkaː wazjaː
 まあ 井川では

A naːisoː qte juːwaːjaː :
 ナイソって いうね

Y koːkorahendeː mo juːːkaːne
 こちらへんでも いうかね

A naːiso , jakamasiː naːiso , naːisoqcjaː jaqpaː ri
 ナイソ , やかましい ナイソ , ナイソとは やっぱり

o¹ku¹no¹ :de ju:¹daka¹ja¹ :
奥の方で いうのかな

C i¹ka¹:no sju:¹wa naiso¹qte juqke , i¹se:ga¹na¹ :
井川の 人は ナイソって 云った イセーがね

naiso¹qcja: joku juq¹ke
ナイソって よく 云った

B na¹kaiso¹qcja: ju:q¹zjanaika ,
ナカイソとか 云うではないか

C na¹kaqso¹qtokaqte
ナカッソとかって

B o¹kun¹osju¹:wa , na¹ku¹naq¹cju:io na¹kaqso
奥の人は 泣くなっているのを ナカッソ

Y a¹: sorja: na¹kasuna¹qcju: kotoda¹ne¹ :
あゝ それは 泣かすなっていることだね

B o¹: ku¹zureno¹:daka na¹ra¹odakaqde ju:¹na , na¹kaq-
おゝ 崩野か 栖尾かで いうな、 ナカッ

so¹qteju:¹o , na¹kaqso
ソっていることを、 ナカッソ

A na¹iso
ナイソ

B na¹iso¹qcja: juq¹ke huNtowa ika¹wano sitoga
ナイソとは 云った 本当は 井川の 人が

ura¹gatokoni ita¹ga
俺の所に 居たが

Y ko¹korahenno tocino hito¹wa so:ju:ko¹to juwaNka¹ne¹ :
この辺の 土地の 人は そういうこと 云わないかね

C juwanai¹ne¹ : ko¹korano sju¹:wa na¹kuna¹qcju:da¹ :
云わないね ところの 衆は 泣くなっているよ

na¹Nnja ka¹mawa¹zu
どんなことでも

Y na¹isoto¹ ka , so¹:ju:koto ci:sa¹ itokini ki:tako¹ to
 ナイツとか そういうこと 小さい時に 聞いたこと

na¹ ikane
 ないかね

A do¹:mo orja: do¹:mo kono¹ ho:zja ci:to juqta¹ jo:-
 どうも 俺は どうも この地方では 小し 云ったよう

na¹ na¹ : , ko¹ no¹ goro ka¹ waqtade¹ na¹ : koto¹ bamo ,
 だなあ このごろ 変ったからな ことばも

na¹ iso¹ ja , qtejuqke¹ na¹ : ju:¹ nja¹ :
 ナイツヤ って云ったな 云うことは

B ho: ko¹ no¹ heNzja: ju¹ wana¹ ina¹ :
 ほう この辺では 云わないね

Y aq¹ cjo¹ : mi¹ cja: i¹ kaN¹ teju:toki¹ ni , mi¹ so ,
 あっちを みては いけないという時に ミソ

aq¹ cjo¹ : mi¹ so
 アッチ ヨーミソ

C so¹ Nnanakota¹ : juwanai¹ na¹ :
 そんなことは 云わないね

A mi¹ Nna¹ qte ju:¹ na¹ :
 ミンナ って いうなあ

Y he¹ Nka¹ ne¹ :
 変ですか

A na¹ iso , na¹ i¹ so¹ na¹ : , u¹ N
 ナイツ ナイツナー うん

Y so¹ rekare , si¹ toga muko:ie iku¹ qteju:koto¹ o , pa¹ si¹ -
 それから 人が むこうへ 行くなっていうことを バシ

ruqteju:hu¹ :ni
 ルっていう風に

A pa¹ si¹ ruqte , iq¹ pasi¹ ruq¹ te¹ na¹ :
 バシル って イッバシル ってね

C pa¹si¹ ruqteju: ika¹:zja¹:
 バシルっていう 井川では

B pa¹si¹ ruqteju:da¹jo ika¹:ziN¹wa
 バシルっていうんだよ 井川の人

A pa¹si¹ ru¹ko¹ toda , ko¹kora¹ zja iqpasi¹ ruqte ju:de¹na¹ : ,
 バシルことだ , ところでは イッバシルって いうからな

do¹ro¹do¹ron iqpasi¹ qte misjo¹:qte ko:ju:qda¹jo¹:
 ドロドロン イッバシルって ミシヨって っていうよ

B pa¹si¹ ruqte iq¹pasi¹ ruq¹cju:da¹ga ma¹: pa¹si¹ ruq¹cju:da¹
 バシルっていうことは (大川では) イッバシルっていうんだけど、まあ、バシルっていう

ika¹:wa
 んだ、井川では

A hoidaga iqpa¹si¹ ruqte ju:koto¹wa koko¹demo cukauga
 だけど イッバシルって いうことは ここでも 使うが

so¹re¹wa ano: , aN¹mari jo¹ikotoba¹de na¹imoNde
 それは あのう あんまり よいことばで ないので

hoizja¹: i¹ma kokoni se¹wa¹ni naqteru¹ra orega
 それでは 今 ところに 世話に なってるだろう 俺が

ozisaNga¹: , so¹site dora , ore¹mo iq¹pasi¹ razuza¹:-
 おじさんが , そして だら 俺も イッバシ ラズザー

q¹te , wa , iwareno:da¹na¹: jaqpa¹ri ano: ,
 って は 云われないんだな やっぱり あのう

zjo:siki¹ zjo: , iq¹pasi¹ razujaqte¹na¹: se¹wani
 常識上 イッバシラズヤってな 世話に

naqtake¹ra: zja: ma¹taku¹ra:qte¹na¹: , kore¹ga
 なっただろう , じゃあ また来るよってな これが

hucu:qda¹na¹:
 ふつうだな

B ko¹nohe¹Nzja ma¹zu naNda iq¹temisu¹ka¹na¹: ore¹mo¹qte
 この辺では まず 何だ イッテミスカナー オレモって

ju:wa^{na} :
云うよ

A uN iq^{temi} suka^{na} ore^{mo}
うん イッテミンカナ オレモ

Y sa^{qki} o^{zisa}nga sja^{be} q^{toruto} kiⁿⁱ iqpa^{si} ruqte
さっき おじさんが シャベってる時に イッパシルって

juqtamo^{ne}
云ったのでね

A juq^{taq} ke^{orega}
云ったわけ? 俺が

Y hu^{zidaka} do^{qkae} muko^e iqpa^{si} ruqte
富士だか どこかへ むこうへ イッパシルって

A iq^{pasi} rute^{ju:jo} ura[:] ju^{:zimade} iwano^{da} kaⁱ
イッパシルっていうよ 俺 湯島で 云わないのか?

B iq^{pasi} ruqte ju^{:sa} : koko^{rademo}
イッパシルって いうさ ここらでも

A hoidaga ku^{zureno:ja} nara^{onoho:ga} jo^{ke:} ju^{:da} na[:]
だけど 崩野や 檜尾の方が 多く いうな

Y ta^{da} iqpa^{si} ruto juwazuni ta^{da} pasi^{rutowa}
ただ イッパシルと いわずに ただ パシルとは

juwa^N kai^{ne} :
云わないだろうか

A iwanaida[:]
云わない

B i^{kawadaki} da ta^{da} pasi^{ruqte} ju:wa[:]
井川だけだ ただ パシルっていうのは

Y sorekarane[:] , a^{me} ga hu^{ruqte} ju:kotoo , ko^{korahen}-
それからね 雨が 降るっていうことを ころへんで

zja[:] , ma[:] i^{ka} wanoho^{:de} pu^{ruqte} ju:dake^{done} : ,
は まあ 井川の方で ブル、て いうんだけどね

ko¹korahen¹zja¹ : pu¹ruqte ju¹waN¹ka¹i¹ne
 ところ辺では プルって 云わないか

A pu¹ru , pu¹ru , iwa¹no¹ : , pu¹runa¹Neja¹ : iwa¹no¹ :
 プル , プル , 云わない プルなどとは いわない

Y sorekara siq¹pu¹rutoka hiqpu¹ru so¹:wa
 それから シップルとか ヒップル そうは？

A u¹N , a¹me ga hiqpuqteki¹taqte so¹rja¹ : ju¹:sa ,
 うん アメが ヒッブツテキタって そりゃあ いうさ

jaijaija¹i ko¹rja¹ : a¹mega hiqpuqtekita¹:ja¹ : , qte
 ヤイヤイヤイ コリャー アメが ヒッブツテキターヤー って

ko:qda¹:ja
 こうだよ

<(X)uN> ame hiqpuqte kita¹:jaqte ju:da hoidaga
 アメ ヒッブツテ キターヤって いう だけど

huru¹qte ju:koto¹ : ko: i¹se:wo cuke¹ruda¹:ja
 降るって いうことを こう 威勢を つけるんだ よ

kokora¹zja¹ : , i¹ku¹qzja¹ : hore , ise¹:ga waru¹imoNde
 ところでは イクでは それ 威勢が わるいので

iq¹pasi¹ruqte ju:to¹na¹ : , so¹ko¹ : ko: , i¹se:ga
 イッパシルって いうとな , そこを こう 威勢が

cukuqda¹jo darjo¹kuga deruda¹na kotoba¹ni¹ : , ho¹:sa
 つくんだよ , 情力が 出るんだね ことばに そうさ

iqpasi¹ruqcja¹:na miNna juwa¹ : , mi¹jacjaNra
 イッパシルとはね みんな いうよ , ミヤちゃん達云わ

iwa¹no¹:ka
 ないか

C ju¹:jo
 いうよ

B sorja¹ : sjoNnaidana jaqpa¹si....., hu¹cu¹:no kotobaq-
 それは しょうがないね やっぱり ふつうの ことば

「da」 na
だな

Y sorekara kono ha「sono」, ha「so」 kucino ma「:」 a「ica」:
それから この ハソの ハソ 口の まあ あいつは

ku「ciga」 waru「iqcju:koto」 o「ne」:, ha「soga」 waru「iqte」
口が わるいっていうことをね , ハソが ワルイ って

ju:hu「:ni」
いうふうに

A ha「soga」 waru「iq「te」 ju:koto「wa」 hi「natasju:「ga」 ju:ga,
ハソが ワルイって いうことは 日向の人が いうが

ko「ko」 qzja:
ここでは

C hi「natasju:da」 so「rja」: hasuga waru「i」
日向衆だ それは ハスが ワルイ

A hasoga waru「iqte」 ju:da「na」 ha「soga」 waru「iqcju:「na」
ハソが ワルイって いう ハソが ワルイっていうね

Y 「so:ju:ko」 to「o」 matane「:」, pasoga waru「iqte」 juwaN「-」
そういうことを またね , ハソが ワルイって云わ ない

ka「ne」
か

A 「pa」 soga , 「pa」 so
ハソが ハソ

Y 「pa」 soga warui a「ica」: pa「soNwaru」 i
ハソが ワルイ , アイツァー ハソンワルイ

A ha「so」 ha「suqteju:dena」 ku pa「soqte」 ju:da , ha「soga」
ハソ ハスっていうでなく ハソって 云うんだ ハソが

waru「i」 naNteju「:ka」 ano o「ma」 qcino ho「:de」
ワルイ なんていうか あの お前の方で

Y u「cino」 ho「:demo」 ju:「ne」: ha「soga」 waru「iqte」 ju:kotowa
うちの 方でも いうね ハソが ワルイって いうことは

A ku^ㄱci^ㄱ ga waru^ㄱi , mo^ㄱ ju:si , a^ㄱnojarō : kuciga
 クチが ワルイ も いらし , アノヤロー クチが

waru^ㄱijaro:daq^ㄱte ju:da^ㄱjo kokoqzja:
 ワルイヤローダッて いうよ ところでは

Y so:ju:ko^ㄱ to: ma: , a^ㄱnojarō : pason waru^ㄱijacudaqc-
 そういうことを まあ アノヤロー パソン ワルイヤッダ

ja: juwaN^ㄱka^ㄱne^ㄱ : , pa^ㄱsuto^ㄱ wa
 とは 云わないかね , バスとは

A ju^ㄱwano^ㄱ:na pasu^ㄱqcja , o:kawazja: juwano^ㄱ:na
 云わないね バスとは , 大川では 云わないね

C juwanai^ㄱna^ㄱ :
 いわないね

B hi^ㄱna^ㄱtaata^ㄱrizja: ha^ㄱsuno waru^ㄱijaro^ㄱ:da^ㄱ qte ju:ko-
 日向あたりでは ハスノ ワルイヤローダッて いうこと

to^ㄱ: ju:wa^ㄱna^ㄱ: , ha^ㄱsu^ㄱqte ju:da^ㄱzo , ku^ㄱcino
 を いうね , ハスッて いうんだぞ , 口の

waru^ㄱiqte ju:koto: ha^ㄱsu^ㄱqte
 わるいッて いうことを ハスッて

Y do^ㄱ:mo ariga^ㄱto: gozaima^ㄱsita ma^ㄱta , i^ㄱzuremata
 どうも ありがとう ございました また , いずれ また

osewa^ㄱN na^ㄱrukamo sireN
 お世話に なるかも しれない

A u^ㄱ:N sorja: , nanikano naNde se^ㄱwa^ㄱN na^ㄱrudakamo
 うん それは 何かの 何で 世話に なるのかも

siNno:q^ㄱze
 しれないぜ

B o^ㄱmosiro^ㄱi^ㄱze hi^ㄱnatano , hi^ㄱnatamo hucu: , wa^ㄱkara-
 面白ぜ 日向の 日向も ふつう わからない

na^ㄱikoto: ju:qda^ㄱi^ㄱna: amega suda^ㄱrerutoka na^ㄱNtoka-
 ことを いうなあ アメが スダレルとか なんとかと

qcuqte¹na: amega hu¹ruqte ju:jo:nakoto: , a¹mega
云ってな 雨が 降るって いろいろなことを アメが

suda¹rete kijagaqta¹qte ju:jo:nakoto¹: ju:¹na¹:
スダレテ キャガッタって いろいろなことを いうね

sakutacu¹wa¹: , a¹mega suda¹reru
作辰は アメが スダレル

B ai¹cuga hi¹toridaki¹ ju:wakeqda¹jo hoiqda¹ga ,
あいつが 一人だけ いうわけだよ だけど

a:ju:kotoba¹o
あゝいうことばを

Y so¹nosito¹mo hoizja¹: , ja¹ene¹:qte ju:daka sono
その人も それでは ヤエ姉って いうのか その

o¹ba¹:saNni , ni¹to¹ruqcju:daka
おばあさんに 似てるっていうのか

B e¹ko¹zikadano
エコジカだの (と作辰がいうの意)

A u¹N , so¹no kuci¹qda¹na
うん その 口だな (ヤエ姉と同類の意)

Y so¹no kucida¹ne¹:
その 口だね

A jae¹ne: no kucida¹na
ヤエ姉の 口だな

Y so¹:ju:sito¹ga o¹ruda¹ne¹ do¹kodemo
そういう人が 居るんだね どこでも

A uN do¹konimo a¹ruqda¹jo
うん どこにも あるね

B hi¹nata¹de ju¹wano¹: koto¹ba¹o cukau¹qda¹jo.....,
日向で 云わない ことばを 使うよ

Y mjo¹:na sito¹dane¹:
妙な 人だね

B o¹mosiro¹i.....dajo sa¹kutacu¹qte
おもしろい(不明)だよ 作張って

A ¹si¹qdo:zuradano ¹ga¹qdo:zuradanonaNte sito:¹na¹:
シッドーズラだの ガッドーズラだのなどと 人をね

ju:da¹na¹: curama¹itoite
云うんだな 捕まえておいて

Y ¹si¹qdo:zurata: do:¹ju:ko¹todesuka¹ne¹:
シッドーズラとは どういうことですかね

A ¹si¹qdo:zuraqte a¹no siqdo¹:zuraga¹qte koide ano:
シッドーズラって アノ シッドーズラがつて これで あの

¹ma¹zu, ¹jama¹guqcaN koko¹ni iru¹ra, ¹sorjo ¹kini-
まず 山口さん ここに いるだろう, それを 気に

irano: toki¹ni ju:da¹na¹:, ja¹ma¹guqcaNo kiniirano:-
入らない 時に いうんだね, 山口さんを 気に入らない

de ano siq¹do¹:zuraga ki¹teiteja¹:, sja¹be¹reqcju:-
で アノ シッドーズラが キテイテヤー シャベレっていったん

daqke¹ga, naNte ju:da¹jo, ¹sorega keqkjoku jama¹-
だが なんて いうんだよ, それが 結局 山口

gucisaNga ki¹te ha¹nasjo¹: sitekurjo¹:qte ju:da¹qcj-
さんが 来て 話を してくれって いうんだって

u:koto¹ga, ano: ¹mo¹si jama¹gucisaNo ¹kinii rano:
いうことが あのう もし 山口さんを 気に入らない

bajainida¹na¹: a¹no siqdo¹:zuraga, toka ¹ga¹qdo:-
場合にだね アノ シッドーズラが とか ガッドーズラ

zuraga ki¹te, ¹sjabē renaNte juqkega ko¹ziranoka¹:
が きて シャベレなんて 云ったが 知らん顔を

sitei¹ta, qte ju:koto¹ga¹ keqkjoku ¹ano¹sitono
していた って いうことが 結局 あの人の

kotobaqda¹na¹:, ko¹ziranoka: siteita¹qte ju:ko¹to:
ことばだな コジラノカー シテイタって いうことを

ju:「ra, kozi「ranoka「: siteita「qte, ju:「ra「
 いうだろう, コジラノカー していたって いうだろう

hama「macuno ho「:qdemo, ko「ziranoka: siteitaqte
 浜松の 方でも コジラノカー シテイタって

ju:koto「wa, damaqteita「qte ju:kotodai「na「: kokoraq-
 いうことは だまっていたって いうことだね ところで

「zja「:, o「rja: koziranoka「: siteita, ziq「zja:
 は 俺は コジラノカー シテイタ 字では

do「: kakudaka「na ko「ziranoka「: siteitaqte i「wa「no:-
 どう 書くのかな コジラノカー シテイタって いわないか

「ka ko「:ni「:ra
 幸兄ら

B so「rja: ju「:「jo koko「razja koziranoka「:o siteita「-
 それは いうよ ここでは コジラノカー オ シテイタ

qej:「jo
 っていうよ

A ki「:「ri e「raku aiso「: cukaqte o「rja: ko「ziranoka: (8)
 (不明) たいへん 愛想 使って オリヤー コジラノカー

sitei「taqte ju:「dajo, keq「kjoku kokoe gjo:sjo「:niN-
 シテイタって いうんだ, 結局 ここへ 行商人が

ga kite「na「., hu「toN kaqte kudasa「itoka 「mo「:huo
 きてね ふとんを 買って 下さいとか 毛布を

kaqte kudasa「itoka 「jo「:hukuno ki「zio kaqte kudasa -
 買って 下さいとか 洋服の 生地を 買って 下さいっ

iqte ku「ruzu「ra ho「siruto, da「maqte ko「site
 て 来るだろう? そうすると 黙って こうして

iruda「jo, doq「para「u wake「da 「moNze「Nbaraida「na「:,
 いるのだよ 追い払い 訳だ 門前払いだな

o「kotowari「qte maci「zja: ju:da「ga「na: 「sono「ka:rini,
 オコトワリって 町では 云うんだがね その代りに,

o¹ko¹towarina¹ Nte ju:kotoba ko¹ko¹ razja cuka:¹no:damo-
お断りなんて いうことば ころでは 使わないから

Ndade , ¹maci¹ karaqdemo jome¹qkodemō kiteirja: sore:
町からでも 嫁でも 来ていれば それへ

¹u¹ raho:demo okotowari¹qtejo:¹jo horja: ano cugo:zj-
俺の方でも オコトワリっていうよ それは あの 都合では

a¹ :

C ¹ho¹:zura
そうだろう

A kite¹mo , o¹kotowari¹qte ju:da¹jo , ¹so:suruto
(誰か) 来ても オコトワリって いうんだ そうすると

ikuda¹jo , ¹soNnakoto: koko¹rade ka¹etasito¹wa
いくよ そんなことを ころで 生れ育った人は

iwano:da¹jo soidamoNdade , soNnatoki¹nja: ko¹zirano-
いわないのだよ だから そんな時には 知らん顔

ka¹: siteirudajo koqci¹: , na¹njo: iqte¹mo ,
しているんだよ こっちへ 何を 云っても

¹so:suruto¹ korja: da¹meda¹naqteqte iqcjauwakeda¹i ,
そうすると これは だめだなって云って 行っちゃう訳だ

so¹notoki¹ni , cukau¹koto¹ba¹ga ko¹ziranoka¹: , so¹rja:
そのとき 使うことばが コジラノカー それは

daNmaqteta¹qte ju:kotoqda¹na¹: ano , kaisecusiruto
黙っていたって いうことだな あのう 解説すると

o¹rja:¹ ka¹uga jadaqkede¹ da¹ma:qteita¹qte , a¹iso:-
俺は 買うのが いやだったから 黙っていたって 愛想をし

sinai¹qte ju:koto¹o koziranoka¹:
ないって いうことを コジラノカー

B mazu do:ju:tokiga e:da¹na , to¹nika ku ko:siN¹saNwa
まず どういう時が 良いかな , とにかく 庚申講は

e: na
良いな

A ko: siNsaNwa e: , ko: siNsaNni mata kitemirja :
庚申講は 良い, 庚申講に また きてみれば

e:wa ja
いいよ

B sa kjo : naNsjo nomuqdena :
酒を とにかく 飲むからな

Y nani sono ha cigacu jo:kade su ka ko Ndowa ,
何 その 八月 八日ですか 今度は

so notoki wa , ki temo e:ka ne :
その時は 来ても 良いかねえ

A so notoki ga ki temo joika qcju:ko towa na , ano
その時が 来ても 良いか っていうことはね あの

ko:site jaru qtju:koto sa ozisaNga ano , kokoqzja :
こうして やる っていうことさ おじさんが あのう, ここでは

kami juzimano ano: mori sita tadajosi qtju:sitoga
上湯島の あのう 森下忠善 っていう人が

ko: siNsamano to:baNras:wa , si moju zimanimo
庚申講の 当番らしい 下湯島にも

o ra gakumito ma da hu ta:cu aruda jo miq cu aruda jo,
俺達の組と まだ ふたつあるんだよ (全部で) みつつあるんだよ

sono miq cu no uci ni , ma da ki :teminai doko -
その みつつの 内に まだ きいてみない どこが

ga to:baNdeka o ra ga kumja: oza watadaici qtju:
当番なのか 俺達の 組は 小沢忠一 っていう

uciga to:baNdaga so no uci wa do:mo aNmari
家が 当番だが その家は どうも あんまり

kaNbasi kuna ida i mahai saqsu rutokoro ga , soide
かんばしくないのだ 今もう 祭するところ であって

so¹no¹ ucja: dame¹dade ma¹ da hutakuci¹ no uci¹ni ,
その家は ためだから また ふた口の 家の

u¹N korja: jo¹ina¹:qte ju:tokoga aq¹ta¹ra¹na¹
うん これは 良いなあって いうところが あったな

ore deNwa¹ dedemo hagakidedemo si¹rasite¹ jaruqde¹na ,
おれ 電話ででも はがきででも 知らせてやるからな

ho:daga aq¹te¹ mona: , aq¹te¹ mo so¹koje ici¹ o:
だけど あってもな あっても そこへ 一応

juq¹te¹mi¹te , naq¹toku¹site kurenaikotonja: si¹joN-
云ってみて 納得して くないことには しかたが

naida¹de , ko¹no kami¹juzimano are¹daqtemo kono
ないんだから、 この 上湯島の あれだっても この

ozisaNga tanoNde¹na , dade iroiro , sono hacibe:-
おじさんが 頼んでな だから いろいろ その 八兵衛の

no ucida¹ki tanoNdejaruqte ju:koto¹mo ko¹rja e:jo¹
家だけ 頼んでやるって いうことも これは 良いよ

sorja ko:ni:raga , nani¹ja ha¹cibe:ja koN¹ja
それは 幸兄らが 何や 八兵衛は 今夜

o¹kjakusaNka¹ : ta¹daq¹te , juq¹te , i¹taqte¹mo jo¹i-
お客さんか 忠って 云って いたっても 良いん

da:na¹ : ano: becuni , si¹to¹no okjakusaNo na¹ze
だな あのう べつに 他人の お客さんを なぜ

tano¹Ndata: juwareno:de da:remo hazime¹saNdaqtemo
頼んだとは 云われないから 誰も 一(はじめ)さんだっても

daredaqte¹mo e:dade , daga so¹noucie , ko:sjo:site
誰だっても 良いんだから だが その家へ 交渉して

mina¹i¹to¹ ma¹zuide¹na: , so¹:denakerja gjo:sjo:ka-
みないと まずいからな そうでなければ 行商かなんか

na¹Nno kataciqde sa¹ka¹nacurini kitaga ikiha¹gureta-
の 形で 魚釣りに 来たが 行きはくれたが

ga do¹:mo ore ¹kuru¹ma¹ ga paNkusitatoka, jare:
 どうも おれ 車が バンクしたとか やれ

¹doNdo¹kode baq¹te¹ri:ga owaqtatokaq¹de¹sa¹:, do¹:demo
 どこかで バッテリーが 終わったとかでさ どうしても

tomete kurjo:ja:¹qte iqte ike¹ba¹: sorja: daNmaqte-
 とめて くれて 云って 行けば それは だまって

de¹mo¹ ikeru¹jo¹ hitonouci: ¹ko¹noheNzja: ko¹nouci¹:
 でも 行けるよ 他人の家へ この辺では この家へ

ki¹taqtemo huNdaga to¹mete kurjo:ja¹:qcjuqte ¹a:ida-
 来たっても だけど 泊めて くれといって あゝだ

medame¹qcja: iwa¹naida zeqtai, ¹doko¹nouci jama¹ga,
 めだめとは いわないのだ ぜったい どの家 山が

so¹rja:¹sa¹ dame¹qteju: iemo aru¹ga koko¹qrazja:
 それはさ だめっていう 家も あるが ここらでは

miNna o¹tasuke, tasuke¹ruqcjuq¹cja¹: naNdaga sono:¹,
 みんな オタスケ 助けるといっては 何だが そのう

koma¹qtasito¹wa¹ tometejaru, da¹na:¹ ora¹ga ata¹ri-
 困った人は 泊めてやる, だなあ 俺達の あたり

demo ho¹:qdaga
 でも そうだが

Y de¹su¹ga, so¹notokoro¹ene¹: ma¹: o¹zisaNno ano:
 ですが, その所へね まあ おじさんの あのう

sono nakama¹no ko:siNko:no tokoro¹e¹wa ozisaNga
 その 仲間の 庚申講の 所へは おじさんが

ikude¹¹sjo
 行くでしょう

A ¹u¹N ikudaikuda
 うん 行く行く

Y ho¹kano tokoro¹e ano: ma¹: iqtabaaini¹ne¹:, o¹zisaN-
 ほかの 所へ あのう まあ 行った場合にね おじさん

wa ikaNwake¹ da¹ ne
は 行かない訳だね

A i¹kanai¹ sa ikanai¹ sa sorja:
行かないさ 行かないさ それは

Y i¹kja¹ : kogci¹ ga o¹korare¹ cjau¹ ne
行けば こっちが 怒られちゃうね

A uN sorja so¹ko¹ wa ikareno:¹ga , so¹kowa ikareno:¹ga -
うん それは そこは 行かれないが そこは 行かれないが -

ja:qte ju:kotowa a¹ rusa sorja: haci be:nara icio:
って いうことは あるさ それは 八兵衛なら 一応

si¹ Nsekidade , naN¹ da ka¹ miju¹ zimano ko:siNsaNe
親戚だから なんだ 上湯島の 庚申講へ

kimi: kitemjo¹ :ja iqpeN , teie¹ ba , oraga , ta¹ maci-
君 来てみよう いっぺん といえば 俺の 田町の

no ke¹Ntao curete kurujo¹ :na mo¹Ndena : , ta¹ma¹ ci-
健太を 連れて くるような もんでも 田町から

qkara icu¹mo ora ni¹Nzu:ga sukuna¹ imoNde ke¹Ntani
いつも おれ 人数が 少ないので 健太に

no¹ko¹ qte kurjo:¹ qtju:da¹ jo , ja¹ro¹ : no¹mita¹ imoNda-
残って くれていうんだよ 野郎 飲みたいのでな

de¹ na¹ :

C no¹ muda¹ka¹ keNni¹ :wa
飲むのか 健兄は

A a¹zja¹ : sjoNna¹ida sakeqkuraide
あれは しょうがないよ 酒飲みで

C ho¹:ka¹ :
そうか

A ke¹Ntaro:¹sa , kazitake¹no¹
健太郎さ カジタケの

C 「u¹N kazitakeno keNtaro:saN¹ka
うん カジタケの 健太郎さんか

Y 「na¹Nka wasja: o¹zisaNni iqte moraitaijo¹:na kiga
なにか 私は おじさんに 行って 貰いたいような 気が

seru¹ne¹: , o¹mosiro¹ide
するね 面白いから

A o¹mosiro¹ka: nai¹sa¹ becuni , be¹cuni ura koto¹ba:
面白くは ないさ 別に 別に 俺は ことばを

kaete cukaieno¹:de jaqpa¹ri i¹ma ju:jo¹na wa keda-
変えて 使えないから やっぱり 今 どのような 訳だが

「ga¹sa¹:
ね

B o¹mosiro¹ida¹jo hoNto konoda¹iku¹wa¹: , 「mazu¹: ,
おもしろいよ 本当に この大工は まず

「beNmo ta¹cusi¹:
弁も たつし

A 「koemo¹ ta¹cuka
声 たつか

B 「i¹ja 「beNga¹sa
いや 弁がさ

Y soreni ko¹e¹ga to¹:rusi¹ne
それに 声が 通るしね

B 「koe¹ga to¹:iqte¹na¹: , soide 「be¹Nsidade jo¹iga¹na¹: ,
声が 通ってな それで 弁士だから 良いがなあ

ko:ju¹:
こういふ

Y i¹kura hanasjo¹: site¹mone¹: , ko¹e¹ga to:ra¹Nto
いくら 話を してもね 声が 通らないと

B 「koega¹ to:ra¹naito dame¹qda¹jo
声が 通らないと だめだよ

A ano: ko^{re} no to: rana^{ito} ju: wa ^{「koma} q^{tamo} N^{dana} : ,
 あのう 声の 通らないと いうのは 困ったものだなあ

^{「ki} murasa^{Nno} ano, ^{「sja} te: q^{kozo}: g^{ana} : , a^o si^{ma}-
 木村さんの あのう 弟がな 青島幸一って

ko: i^{ci} q^{tena} : mazu mo^{「nosugoi} dai sizo[」]: ka daiku^{ke}-
 な まず ものすごいよ 静岡 大工建築業

N^{cikugjo}: ku[」] mia^{ino} ku^{「mia} ic^{jo}: wa , o^{「sika} ke^{te} ki^{ta}-
 組合の 組合長は 押しかけて 来ただ

q^{daga} na[」] : , to[」]: me: no , ma^{Nda} , i^{「e} no ma^{「Nnaka}:
 がな 東名高速道路の まだ 家の まん中を

to: q^{cjaqtada} jo , so^{ida} mo^{Ndai} ko[」] N^{da} hi^q k^{osi} o^{site}
 通ったんだよ それだから 今度 引越しをして

ri^{qpa} na uc^{jo}: cu^{kuqta} g^{ana} : so^{re} g^{ana} : , a^o si^{ma}-
 立派な 家を 作ったけれどね それがな 青島幸一っ

ko: i^{ci} q^{tena} : ri^{qpa} na ni^{「Nge} N^{da} ura[」] ta: wa^{ka} i^{ga}-
 てな 立派な 人間だ 俺よりは 若いかな

na[」] : , so^{rede} ha[」] : ni^{「ki} da^{ka} sa^{Nki} , sizo[」]: ka
 それで もう 二期か 三期 静岡

daiku^{ke} N^{cikugjo}: ku[」] mia^{ino} ku^{「mia} ic^{jo}: o ni^{「ki} ja^{ru}-
 大工建築業組合の 組合長を 二期 やる

wa^{ke} da^{jo} , so^{re} g^{ana} : , mazu , o^{ja} ka^{tadade}
 わけだよ それがなあ まず 親方だから

ja^{qpa} ri , ha[」] : , so^{no} , gi^{「kaiga} ha^{zimarja}: , i^{「kina}-
 やっぱり もう その 会議が 始まれば 冒頭に

ri a[」] isaco: si^{ru} wa^{ke} q^{dajo} , so^{ida} ga ko^e ga
 あいさつを する わけだよ だけど 声が

to: rana kute si^{jo} N^{na} i , so^{site} ko: ^{「sjabe} q^{te}
 通らなくて どうしようもない, そして こう シャベって

ite^{na} : ^{「sjabe} q^{te} ita[」] q^{te} i^{ki} ma[」] si^{ta} ga ,
 いてね , シャベって いたって (早口 不明) いきましたか ,

q¹teju:jo¹:ni daNda¹N na¹qte ku¹rudajo , so:siruto
っていうように だんだんに なって くるのだ、 そうすると

「zibuNde¹mo 「omo¹:rasi:da¹jo so:site mata , 「omoida¹ -
自分でも 気がつくらしいのだ そうして また 思い出

itajo:ni mata o:ki¹: koesi¹cja:na , ju:daga 「so:si-
したように、 また 大きい 声をしてはね 云うのだが そうす

ruto mata muko:no ho¹:e sono 「joNzju¹:niNmo sai:qte¹ -
ると また むこうの 方へ その 四十人も 座って

ru hanasi¹zu¹ra¹ ho¹re , soidamo¹Nde 「maiku¹demo
いる 話だろう それ、 だから マイクでも

kuqcuke¹te okuqde nakerja:na: ano: ku¹mia icjo:no
くっつけて おくので なくてはね、 あのう 組合長の

hanasi¹ga dame¹qda soide aredaki¹ga , ku¹mia icjo:mo
話が だめだ それで あれだけが 組合長も

「mo:ciqto koega to:ru¹to jo¹ikumia icjo: dagana:q¹-
もう少し 声が 通ると 良い組合長 だがなあ

「to omo¹:dajo , 「omo¹:qcju:koto¹wa , iq¹pa Nno sju:ni
て 思うんだよ 思うってことは 一般の 象に

ki¹ko¹enakja: i¹manaNto¹ juqtadaqkeqte ju:sitoga
聞こえなければ 今なんと 云ったかって いう人が

hi¹to¹ridemo aqtazja hanasi¹ni narano¹: , a¹re
一人でも あったんじゃ 話に ならない、 あれ

joikumiaicjo:daga ko¹e¹ga to:rano¹:daki¹ga keqte¹N ,
良い組合長だけれど 声が 通らないだけが 欠点、

daga su¹go¹i e:daNnadena¹: siq¹ka risite , 「sorega
だが すごい 良い旦那だね しっかりして、 それが

ki¹murasaNnona¹: , 「ojaka¹tano , o¹jaka¹taqte 「ke¹N-
木村さんのね 親方の 親方って 健

cjaNno kozo¹: , 「naN¹te ju: kozo¹:daqta 「mi¹sao
ちゃんの 小僧 何て いう 小僧だったか、 みさを

C uN
うん

A a^ɾrega iqte^ɾita desi^ɾni
あれが 行っていた, 弟子に

B de^ɾsini iqte^ɾruka ano: ke^ɾN, ^ɾke^ɾNdaino
弟子に 行ってるか あのう 健, 健大工の

A a^ɾre da^ɾikuni sirudagcjo: ^ɾwa
あれ 大工に するんだそうだ

B do^ɾreo^ɾja
どれを?

A mi^ɾsa^ɾoqtju:daqcjo: ^ɾjo
操っているんだそうだ

B ^ɾke^ɾNdai^ɾno
健大の

A ko^ɾzo:
小僧

B ano:
あのう

A to^ɾsibo:ino sja^ɾte:
トシボーの 舎弟

C dc^ɾrega^ɾ do^ɾ:daka
どれが どうか

A taN^ɾto irude wakarano: ^ɾqdaja
沢山 いるので わからない

C ta^ɾNto^ɾ aruda^ɾna
沢山 あるんだね

A so^ɾ:site juNbe ore sokoi tomaqte kita^ɾga^ɾsæ^ɾ:
そうして 昨夜 おれ そこへ 泊って 来たがさ

mi^ɾsawo, mi^ɾsawono, oto^ɾqcjaNno, naN^ɾda, a^ɾnide^ɾ-
操 操の お父さんの, なんだ, 兄弟

sigā ki¹ta koN¹ja , ni¹ zju:roku¹ no ko¹daN , ka¹wo-
子が 来た 今夜 二十六の 子だが、 顔を

dase¹ q¹te¹ qkja: so:sitara kitaq¹ke: sa: , so:si¹te ,
出せって云った そうしたら 来たよ そうして

ho¹Nto:ri kju¹:cjo:meno ko¹:ko¹: ko:ju:oitaciq¹dē¹
本通り 九丁目の こうこう こういう生い立ちで

mi¹ saō qtju:mono¹ wa soreno hikodaka jasjagoni ataru-
操っているものは それの 曾孫か ヤシヤゴに 当るん

da zo qtju:koto: , ore juqta da jo , o re ojakatano-
だぞっていうことを おれ 云ったんだよ おれ 親方の

na: arja: hikodaka jasjagoda jo o jaka tano ,
ね あれは 曾孫か 曾々孫だよ 親方の、

hoNto:ri¹ kju:cjo:mezu¹ra kimura tacuzo: inBenō
本通り 九丁目だろう 木村 辰蔵 院部の

masajasu¹ wa , sosite ki muratacuzo: inBenomasajasuq-
正保は そして 木村辰蔵 院部の正保っ

teju: namae¹ wa , se¹ NgeNsamano husiNno sju:rino
という 名前は 浅間神社の 普請の 修理の

toki ni kimura qteju: se: o , mora qte aruda zo¹
時に 木村っていう 姓を 貰って あるんだぞ

waqciraga hikozi: daka jasjagozi: wa qte ju: hanasi o¹
私たちの 曾祖父が 曾々祖父はっていう 話を

si¹ta dajo , so:sitara si¹ rano: qte ju: da ja misaoga,
したんだよ、 そうしたら 知らないって いうんだ 操が、

o¹to¹ qcjaNga⁽¹⁰⁾ so:ju: hanasi ga a¹ qcura ozi: cjaNkaq-
お父さんが そういう 話が あっただろう おじいちゃんからかって

tara naNni¹mo¹ sirano: qcuq¹keja: , soide ki mura-
云ったら 何にも 知らないって云ったよ それで 木村

tacuzo: inBenomasajasu¹ qte ju: wa , ki mura ke Ncj-
辰蔵 院部正保って いうのは 木村 健ちゃ

aNno , misaono ojaga keNi¹ cide , keNi¹ cino ojaziga
んの 操の 親が 健一で, 健一の 親父が

kimurato¹ josakuqde , tojosakuno ojaziga sjo:sukeda¹ -
木村豊作で 豊作の 親父が 庄助大

ikuqde , sjo:sukeda¹ ikuno ojaziga kimuratacu ,
工で 庄助大工の 親父が 木村辰,

zjana¹ i tacuzo¹:zu¹ra , kimurasjo:suke¹ Ntoki hai
じゃない 辰蔵だろう, 木村庄助の時 もう

mjo¹:ziga aqta¹ da¹ jo , sonoma¹ enja: , ta¹ cuzo¹:Nto-
苗字が あったのだ, その前には 辰蔵の時

kja: , ta¹ cuzo¹:daki¹ daze arja , mjo¹:ziga na¹ idajo
は 辰蔵ただけだぜ あれは, 苗字が ないんだよ

sonoto¹:ziwa , soidake¹ N se¹ NgeNsaNno aNtokini ,
その当時は, だけど 浅間神社の あの時に,

hu¹ si¹ Nnotoki¹ ni¹ ki¹ mura¹ qte ju: se¹:o mora¹qte ,
普請の時に 木村って いう 姓を 貰って,

iNbenoma¹ sajasu¹ qteju: namaeo , ta¹ cuzo¹:o maNnakai
院部の正保っていう 名前を, 辰蔵を まん中に

irete ki¹ mura , ta¹ cuzo¹:zu¹ra hoNto:no , o¹ sana ,
入れて 木村 辰蔵だろう 本当の 幼ない

toki¹ no namaewa , kimuratacu¹zo: i¹ Nbeqte , na¹ nina-
時からの 名前は, 木村辰蔵 院部って なにな

nii¹ Nno i¹ Ndade¹ na , ko¹ zatoheNno , iNko¹ zinaNte
に院の 院だからな, こざと辺の 院居士なんて

jo¹ ku ju: i¹ N , be¹ toju: ziwa bu¹ dajo
よく いう 院 部という 字は 部だ

Y bu¹ : , hu¹ N
部 ふん

A bu , bu , i¹ Nbenoma¹ sa¹ jas¹uqte sjo¹:toju: zino¹ na ,
部 部, 院部の正保って 正という 字のな,

iNbenomasa¹ jasuchte ju: namae mo¹ qteru, are ri¹ qpa-
院部の正保って いう 名前 持ってる, あれ 立派

na¹ ze¹ o¹ raNho: , soide so¹ reo a¹ o¹ simako:icini
だぜ 俺の方, それで それを 青島幸一に

Y sa¹ muraika na¹ Nkami¹ taida¹ ne¹ :
侍か なんかみたいだね

A a¹ o¹ simako:ici¹ sini juq¹ ta¹ dajo juNbe ci:qto jo¹ qte
青島幸一氏に 云ったのだ ゆうべ 少し 酔って

itamo¹ Nde , su¹ sjo¹ : moraqtari nani¹ kasite mi¹ jage
いたので, 寿司を 貰ったり 何かして みやげ

moraqte tomaqte kitaga¹ sa¹ : orja: , so:sita tokoroga
貰って 泊って 来たがさ 俺は そうしたところか

na¹ Nda omaesaN so¹ koma de keNkju:sitei rukaqte
何だ お前さん そこ迄 研究しているかって,

keNkju:si¹ tei ruqte zibuNno , o¹ rja: icida¹ idaikuqda-
研究しているって 自分の 俺は 一代大工だ

ga¹ na¹ : , orema daikude ici dai to¹ :rudade ,
がな 俺も 大工で 一代 通るんだから,

o¹ reno ojazi:wa kimuratojo sakuqdaga to¹ josa¹ kuno
俺の 親父は 木村豊作だが 豊作の

ojazijori koreo soreo iNbenomasa¹ jasujori mada¹
親父より これを それを 院部の正保より まだ

sonomu¹ ko: o¹ orja siritaku¹ te kanawa¹ no:qte ju:da¹ -
そのむこうを 俺は 知りたくて たまらないって いうのだ,

jo , si¹ ri¹ takute kanawa¹ no:ga , si¹ ruko¹ toga deki-
知りたくて たまらないが 知ることが でき

no¹ :da¹ jo , so¹ reo siqta¹ qcju: jaca: ko:ni¹ : juqta-
ないのだ, それを 知ったという 話は 幸兄 云った

qke¹ ka¹ i kuzureno¹ :no oqsaNga , je¹ zumeNo , je¹ zu-
かしら 崩野の 和尚が 絵図面を 絵図

meNo kuretajacu
面を くれた話

B 「si¹ra¹no: sorja:
知らない それは

A so¹rjo: ki¹josisa⁽¹¹⁾Nni ima kajaita¹ga¹sa¹i, 「ka¹jaite
それを 清さんに 今 返したかき 返して

do: a¹rega nakuna¹qtaqtjuqte¹na, orja: nusu¹qdademo,
どう, あれが なくなっただ云ってな 俺は 盗んだでも

ano: , 「to¹qtademo naNdemo naimoNda¹ga, 「ko:ju¹:-
あの 取ったでも なんでも ないものだが こういう

wakede oreNtoko¹ni a¹ruqte 「u¹N 「zicuni¹:Ntokoni
訳で 俺の所に あるって(云ったら) うん 実兄のところに

「a¹ruqteju:kotowa siq¹cja¹: iruga¹sa, iru¹ga¹qte
あるっていうことは 知っては いるがき いるがって

ju:kotoN naqtena¹: arjo: mi¹sete kurjo¹:qte ju:ko¹≠
いうことに なってな あれを みせて くれって いうこ

to¹N naqtazu¹ra, hoidamoNde ko¹na¹ida moqtei¹qte
とに なったんだろう, だから このあいだ 持って行って

miseta¹jo, sore: suq¹ka¹ri 「ke:o: nisa¹i, no
みせたよ, それに すっかり 屢応 二才 の

naNneNno naNgacu¹ni¹ sita¹qte ano: ku¹zureno¹:no
何年の 何月に したって あのう 崩野の

kaNnoNdo:no zu¹me¹Nga aqte¹sa soreo u¹ra¹ga kozo:ga
観音堂の 図面が あさって それを 俺の 息子が

toqcje¹Nwa ko¹reo ho¹idemo, sa¹gasida¹ite kitaqdaga,
父ちゃんは これを それでも 探し出して 来たんだけれど,

jera¹i ta¹isita 「mo¹Ndaqcjuqtena¹: saNniN jo¹mida¹i-
たいへん たいした ものだって云ってな 三人で 読み出し

teite mi¹teita¹dajo:, so:siteite 「ki¹josisaNga
ていて みていたんだよ, そうしていて 清さんが

o¹ rja: a¹ rutoka : siqtei¹ tada¹ qte¹ orja: ju:da¹ jo¹
俺は あるところは 知っていたんだって 俺は いうんだよ

aru¹ to¹ ka: , qte¹ sa: oreN¹ tokoni a¹ ruqda¹ joqcju:wa-
ある所は ってさ 俺の所に あるよっていうわ

ke¹ de iqte , zicuni¹ : , do:si¹ te¹ sorega zicuni :-
けで いて 実兄 どうして それが 実兄

Ntoko¹ ni arudaka qte ko:ju:koto¹ Nnaqte i¹ roiro¹
の所に あるのかって こういうことになって いろいろ

hanasjo¹ : sitaqda¹ jo so:site so¹ rewā oq¹ saNni¹
話を したんだよ そうして それは 和尚に

moraqtekita wakeqda¹ ga¹ na: , ki¹ josisaNga iqpeNna :
貰ってきた わけだがな, 清さんが いっぺんなあ

wa¹ riai ko: zu¹ ro: kime¹ tajo:de i¹ takoto¹ ga a¹ ruda-
割合 こう ずるを きめたようで いたことが あるん

jo anoko: , maci: iqtekita¹ ri na¹ nikasite ko:
だ あの, こう, 町に 行ってきたり 何かして こう

hu¹ tekusa¹ qtajo:na kataciN¹ naqtako to¹ ga a¹ ruqda¹ na :
ふてくさったような 形に なったことが あるんだな

ta¹ isjo:ga: , a¹ notoki¹ ni ano: , daNto¹ so:daide¹ na¹
大将が, あの時に あのう, 壇徒総代でな

kuzure ke¹ nokubo¹ ga , sore¹ ga moqteiqte o¹ te¹ rai¹
崩 家久保が, それが 持っていて お寺へ

hiNja¹ qcjaqta wake¹ daja: ki¹ josisaNga , koNnamona:
やっちゃった わけだよ 清さんが, こんなものは

o¹ rega hokaNsirumo¹ Nzja:na¹ iqcjute , so¹ reo¹ kuzure-
俺が 保管するもんじゃないって云って, それを 崩

no:ino oqsaNga tosjo:rino mimiqtoto: i ozi: saNga¹ sa: ,
野の 和尚が 年寄りの 耳遠い おじいさんがさ,

da¹ ikusaN ote¹ rani aqtaqcja: naNni¹ mo narano¹ :ga ,
大工さん お寺に あったって 何にも ならないが

ano¹ orja: ho¹re ko¹:ju:da oqsaNni¹mo, ki¹ josisaNni-
あの 俺は ほれ こういうのだ 和尚にも 清に

mo ko:ju¹:dadade, ano:, da¹ ikusaNga mo¹ qteiqte
も こういうんだから, あのう, 大工さんが 持っていて,

o¹ku¹to, naNzo¹ja¹ mania¹ ukotoga aru¹kamo sirenaide
おくと 何かの 問にあうことが あるかも 知れないから

mo¹qte ikinasa¹iqte kure¹tawake¹da, a¹: arigata¹iq-
持って 行きなさいって くれたわけだ, あゝ ありがたいっ

te ju:koto¹demoqte, sa¹: mi¹ tatokoroga omae,
て いうことでもって さあ 見たところが お前

mu¹kasino zi¹de jo¹mena¹iqteju: wake¹qda, jo¹mena¹-
昔の 字で 読めないっていう わけだ, 読めな

imoNde⁽¹²⁾ jakusano⁽¹²⁾ hi¹rajazi:na¹:, ore¹mo: sono,
いので 八草の ヒラヤ爺ね, 俺も その

so¹:iqtajō¹:no koto¹wa¹ kiocuke¹ru otoko¹dana hi¹ra-
そういったような ことは 気をつける 男だな, ヒラ

jazi:ga iki¹te itaqda¹:jo, i¹ki¹te i¹taqzja: naijo
ヤ爺が 生きて いたんだよ, 生きて いたんでは ないよ

kuzu¹reno: ojaziNtokoi kite, o¹jazi ko:ju¹:mono:
崩野の 親父のところへ きて, 親父 こういうものを

moraqte ki¹tajoqtara ke¹Nziro:ni:N tokoi ki¹tesa,
貰って 来たよっていったら 健次郎兄の 所へ 来てさ,

ho¹:ka, ore mi¹taq¹cja: wakarano¹:ga sa¹qte ko:ju:-
そうか, 俺が 見たって わからないがさって こういう

wakede ha¹i, naNdade, wa¹karano¹:te ju:demonai¹ga,
わけで もう, 何だから わからないって いうでもないが,

wa¹karuko¹ta: wakaruga soide¹mo ojazi konozio
わかることは わかるが それでも 親父 この字を

jomii¹ruka:qte juqtatokoroga urao¹jazimo ciq¹ta:
読めるかって 云ったところが 俺の親父も 少しは

zi¹wa jome¹taqda¹jo , soida¹ga jo¹mena¹ida¹jo naninan-
 字は 読めたんだよ, だけど 読めないのだ 何々

ino so:ro: naNneN , na¹Nno so:ro:buNde ka¹itea¹ru
 の 候 何年 何の 候文で 書いてある

wakeqzu¹ra , modorizi¹naNka ka¹ite¹kimuratacu¹zo¹:ga
 訳だろう, 戻り字なんか 書いて 木村辰蔵が

ka¹itada¹zo¹ orja: , soide ko¹rega , to:kajomita¹igana¹:
 書いたのだぞ それは, それで これが, トーカヨミタイ (不明) があ

qcjuqta tokoroga so:demo sorja dai¹gakuno seNse¹:toko¹
 っ云った ところが そうでも それは 大学の 先生の所へ

idemo moqteqte , ano: mi¹temoraude nake¹nja dame¹daqo-
 でも 持っていて あの時 見て貰うので なければ だめだって

juq¹ta tokoroga zi:ga sono ke¹Nziro:no zi:ga , sorja
 云った ところが 爺が その 健次郎の 爺が それは

ja¹kusano hi¹ra jasan¹tokoi moqteqte misjo¹:qtju:
 八草の ヒラヤさんの所へ 持って行って 見せよっていう

koto¹N naqtaqda¹i , sa: hi¹ra jazi:no tokoroe moqte-
 ことに なったのだ, さあ ヒラヤ爺の 所へ 持って

qtatokoroga¹na , sa: hi¹ra jazi:ga i¹kicu¹i ,
 行ったところがな, さあ ヒラヤ爺が 行きつい

i¹kicukiso¹:na tokiqzu¹ra , kotacui saqte saqtei¹-
 行きつきそうなの 時だろう, こたつへ 座って 座ってい

ruda¹jo , o¹i¹koNciwa¹qte juqt¹tekoro¹gana¹: , u:N¹u:N¹
 るんだよ, おい今日はって 云ったところがな, ウーンウーン

ibikjo¹: kaitena¹: , sa¹:qtakiride ibikjo¹: kaite
 いびきを かいてな, 座ったきりで いびきを かいて

nete arja: tosio¹ heruto a:na¹ru¹dana¹: , ne:qte¹-
 寝て, あれは 年を 経ると あゝなるんだなあ, 寝入って

i¹rusa ta¹da , soide osa¹dasaNni , orja: hi¹raja-
 いるのさ ただ, それで おさださんに 俺は ヒラヤ

saNni ci:to¹ ta¹nomita¹ikotoga aqte ki¹tadaga ¹do :-
 さんに 少し 頼みたいことが あって 来たんだが どう

qda¹ja¹ : sa¹dane¹:qte juqtatokoro¹ga , ¹u¹ragazi:wa
 だろう さだ姉って 云ったところが、 俺のところの爺は

da¹me¹ qda ha¹ : bo¹kecjaq¹te¹ qte ko¹:ju:kotoNna¹qtada ,
 だめだ もう ぼけちゃって いて こういうことになった、

so:site ¹hi¹rajasaNni soreo ¹mite¹ moraitaidajo ,
 そうして ヒラヤさんに それを 見て 貰いたいのだ

da¹medame¹ toq¹temo dame¹qda: ano: zicu¹ni: , ¹da¹-
 だめだめ とても だめだ あのう 実兄 大

ikusaN , u¹ra¹gazi:wa ha¹ : ko¹kona¹ : ¹kjo¹neNata¹ri-
 工さん 俺の所の爺は もう こね 去年あたり

qkara ¹bo¹kecjaqte naNnimo tameni ¹ta¹da ¹iki¹o
 から おいばれちゃって 何にも 後に (たたない) ただ 息を

siteirudakede ¹naNnimo narano¹:qte , ¹to¹:¹to¹ : ¹mi¹te-
 しているだけで 何にも ならないって とうとう みて

moraeno: koto¹Nnaqte , ¹hoidamo¹Nde sizo¹:kai moqte-
 貰えない ことになって、 だから 静岡へ 持って

iqte ha¹na¹murano jasumasa¹qte ha¹na¹no seNse¹:
 いて 花村の 康正って 花の 先生

iqta ¹sa¹qkino pu¹ropaNno hanasi¹daqke , ¹arega¹
 云った さっきの プロパンの 話だった、 あれが

¹hanano seNse¹: iqtaqkezjanai¹ka
 花の 先生 (さっき) 云ったっけね

B uN hana¹murazu¹ra
 うん 花村だろう

A hanamura a¹re¹: moqte iqte¹sa: , arega ¹hanamura ,
 花村 あれへ 持って いてさ、 あれが 花村

da¹igaka: ¹decja:ino¹:ga ko:ko:wa deteiru¹ra , de ,
 大学は 出てはいないが 高校は 出ているだろう、 で、

「soreo cu:zi¹tesa so:site¹sa a¹nolitono, 「seNse¹:-
それを 通じてさ そうしてさ 人の 先生か

aka na¹Ndakaga keqkjoku sorewa¹, i¹mano zide zu:q-
何かが 結局 それを 今の 字で ずうっ

to ka¹kinao¹ite kureta so¹rega sore¹qdeaqte 「mo:hi-
と 書き直して くれた それが それであって もうひ

to¹cu aruwake¹qda: orenosono, o¹reno jo¹mujacu¹ga,
とつ あるわけだ 俺のその 俺の 読むやつが,

「so:site a¹qtada¹jo, so:site daizi¹ni siteitara
そうして あったのだ, そうして 大事に していたら

kijo¹sisaNga konoaida 「kaNnoNsa¹ma husi¹Nsicu¹ra¹
清さんが このあいだ 観音様の 普請をしたらう

orega, 「sjū¹:risicu¹ra, anotoki¹ni, soreo sirita-
俺が, 修理したろう, あの時に それを 知りた

i¹qte, a¹re¹ hja¹ku¹ro¹kune¹Nni ta¹qte ira¹:ja ano
いって, あれ 百六年に 建って いるよ あの

kaNnoNsa¹Nga, i¹ma¹no kaNno¹Ndo:「ga¹ hja¹kuro¹kune¹N
観音様が, 今の 観音堂が 百六年

ta¹qteiru, 「ha¹te¹na, 「neNgo¹: wasuretaga, ore
たっている, はてな, 年号 忘れたが, 俺

ka¹itearuga¹sa¹ cjaNt, hja¹kuro¹kune¹N taqteiruga
書いてあるがさ ちゃんと, 百六年 たっているが

「sonomae¹ni kaNno¹NsaNga aqta¹dajo, so¹no kaNno¹N-
その前に 観音様が あったのだ, その 観音

saNona¹:, koqda ja¹rinao¹sutoki¹ni, ima, kimura-
様をな, 今度は やり直すときに, 今, 木村

tacuzo: inbenomasajasuto, bu¹ra¹kuno sju:tona¹:,
辰蔵 院部の正保と 部落の 象とな,

ka¹kube:「qte ju:ie¹qda:ja: kenokubo¹wa, ka¹kube:「qte
角兵衛と いう家だよ 家久保は, 角兵衛って

ju:ie¹ da kenokubowa , ka¹ kube:¹ qte ju:moNga cjo:¹ -
 いう家だ 家久保は 角兵衛って いう者が 長

daqke sono kuzure¹ no: no , sono cjo:¹ to iNbenomasa¹ -
 だった その 崩野の, その 長と 院部の正

jasuto ke: jaku¹ o toqta wake¹ dajo zumeNo , ke: jakuo¹
 保と 契約を 取った 訳だよ 図面を 契約を

ka¹ icjaqtada soica: , zu¹ meNwa¹ zumeNde zju: buNno
 書いちゃったのだ そいつは, 図面は 図面で 十分の

ic¹ no zumeNo ka¹ itesa kono zu¹ meNdo¹: rino mono¹ wo,
 一の 図面を 書いてさ この 図面通りの ものを

kimuratacuzo: iNbenomasa¹ jasuga , ano: , hi¹ kiu¹ kete
 木村辰蔵 院部正保が, あのう, 引き受けて

cu¹ kurimasu¹ qteju: sono ke: jaku¹ o kosaete¹ ru , soide
 作りますっていう その 契約を こさえてる, それで

kō: kozukuri , zjanai kō: ko , kō: , e: , kō: -
 じゃない コーコ コー え>

kozukuri irimoja , na: , e: , zeNmeN ano: goha-
 入母屋 なあ え> 前面 あのう

izuki¹ qte ju:koto: utaqtē sa , sore bu¹ Nsjowa na ga-
 いうことを うたってさ それ 文章は 長い

ide wakarano: ga i¹ kinarino uta: kata , u¹ ta izome-
 から わからないが 冒頭 の 歌を カタ, 歌い始め

wa sorede so: site zu: qto kaitearu , soide ima¹ mo
 は それで そうして ずうっと 書いてある, それで 今も

so: iqtadaga u¹ mino are , ki¹ jo¹ sisaNga arjo:
 そう いったのだが 海野 あれ, 清さんが あれを

ka¹ jasa¹ no: na: qte ju:koto¹ N naqtē sa: i¹ ma¹ ni iqte
 返さないなって いうことに なってさ その内に 行って

mo¹ raqteko¹ nja sjoNnaiga¹ na: jo¹ kosumo¹ Ndaka do: daka
 貰って来なくて は しょうがないが な よこすものか どうか

Y so¹re ze¹Nbe jome¹ta wake¹desuka
 それ 全部 読めた 訳ですか

A jo¹meru
 よめる

Y ze¹Nbu jome¹ta
 全部 読めたの

A u¹N jo¹meru , jome¹ruqcju:koto¹wa sonozio¹ keqkjo-
 うん 読める 読めるっていうことは その字を 結局

ku , i¹ma , da¹ikuga ko:site muneage , mune ,
 今 今 大工が こうして 棟上げ 棟

mu¹na¹ageo siru¹ra , mu¹naage¹o siruto asokoi mu¹na-
 棟上げを するだろう, 棟上げを すると あそこへ 棟

huda¹o kaku¹ra , mu¹nahuda¹mo kakusi so:site no¹ri¹-
 礼を 書くだろう, 棟礼も 書くし そうして 祝詞

to ageruwake¹qdajo , ko¹noie¹ga sono , saina¹No
 を あげるわけだ, この家が その 災難を

nogarete sono , ma¹su masu ha¹Nzjo:sirujo :niqcju:ko-
 逃れて その ますます 繁昌するようになっていうと

towa , to¹:rjo:wa jo¹ma nja narano: wake¹qzura ,
 とは 棟梁は 読まねば ならない わけだろう,

sono no¹rito¹mo a¹ruwake qda cjo¹:no hazime kjo¹:-
 その 祝詞も あるわけだ, チョーの始め (つまり) 今日

iqte sigoto: hazimeruhiga jo¹iqte sigoto: hazimeru-
 行って 仕事を 始める日が 良いって 仕事を 始める

tokinja cjo¹:no hazimeno norito¹mo arusi , mu¹ne¹-
 時には チョーの始めの 祝詞も あるし 棟上

ageno norito¹mo arusi sosite , sosite ra¹kuse¹:siki-
 の 祝詞も あるし そして, そして 落成式

no¹ norito¹mo aruda¹jo , so¹remo¹ oreno¹ga ka¹ite-
 の 祝詞も あるのだ, それも 俺のが 書いて

aru moraqtē¹ ru wake¹ dajo oqsaNni, so¹remo¹ jome¹na-
ある 貰ってある わけだよ 和尚に, それも 読めない

ida jaqpa¹ ri, so¹idamo¹ Nde zuqto konokurai ka¹ite-
のだ やっぱり, だから ずっと この位 書いて

aru¹ jo¹ oreno¹ ga noritoga, soide kore: zu:qto
あるよ 俺のが 祝詞が, それで これへ ずうっと

morito: ka¹i¹te¹ soree mata¹ mo:iqcjo:¹ kana:
祝詞を 書いて それへ 又 もうひとつ かなを

huqtajacuto mo:iqcjo:a¹ ru wake¹ dajo, soremo ima
ふったのと もうひとつある わけだ, それも 今

si¹maqtearuga¹sa¹ mata ko:ni: a¹reni na¹rumoNdade
しまってるがさ 又 幸兄 あれに なるから

ano: cu¹go:ni joqcja: ano:, hi¹cujo:mo na¹imoNdaga
あのう 都合に よっては あのう 必要も ないもんだが

ha¹nasi¹ no taneni na¹rude¹ mite¹ mo morauga¹na,
話の 種に なるから 見ても 貰うがさ,

sore: rojo¹:namoNga soqcjo:¹ mireba jo¹merudajo
それへ 通じた者が そっちを みれば 読めるのだ,

jome¹rudaga ima ore siNgjo:o ano makahaNnja hara-
読めるが 今 俺 心経を あの 摩訶般若 波羅

mita siNgjo: kaNzeoNbo¹sacuqte ju:jacu¹wo, hazimja:
見陀 心経 観世音菩薩って いうのを 始めは

jo¹menakute ima: jo¹meruqde¹na¹ soraqde¹:, areto
読めなくて 今は 読めるからな それで, あれと

iqsjode tokidoki dai¹te mi¹teireba¹na, soNnamono
一緒に 時々 出して 見ていればな, そんなもの

mino:qtemo kucidakede jo¹merudajo, sorja: na¹gai
見なくても 口だけで 読めるのだ, それは 長い

mo¹Nkuzja:nai¹sa, aru¹jo¹ sorega, aruga ima uci¹-
文句ではないさ, あるよ それが, あるが 今 家

nja: na¹i o:¹kawa¹isaNtokoi i¹ma ano: aNtaga
 には ない 大川井さんの所へ 今 あとう あんた(山口)が

saka¹nokami ano: , mijosuke⁽¹⁴⁾ qte ju:sito¹no zaisjo¹i
 坂ノ上の あとう, 美代助って いう人の 在所へ

iku¹qteju: , kaNke:zjo: , mijo¹sukesaNno ni:saNga ,
 行っていて 関係上 美代助さんの 兄さんが

koqci¹ni iruda¹jo na: mijo¹ni:no ni¹:saNdaqke
 こっちに いるのだ, なあ 美代兄の 兄さんだったね

kami¹zimosaNwa , soreno¹koga¹ ima iruwake¹da , so:-
 カミジモさんは, それの子が 今 いるわけだ, そう

ju:koto¹ga aru ,
 いうことが ある

(4)

B so¹rja: hoizja: ki¹josisaNga motowa a zuka¹qte
 それは それでは き 清さんが もとは 預かって

itamoN¹da
 いたものだね

A ho¹:da , kaku¹be:⁽¹⁵⁾ga¹na¹:
 そうだ, 角兵衛がな

B o:¹ kaku¹be:q¹de sosi¹te
 おゝ 角兵衛で そして

A 「kaku」be:ga 角兵衛が 「daida」i na': , 代々ね ano: , あのう, o「te」rano お寺の o「jaka」- 親方

tadamoNde , 「ke」nokubowa⁽¹⁶⁾ arja: 「ke」nokubo icibaNno 家久保は あれは 家久保 一番の だから,

kaisaNdo: no i「ci」baN juwe「daqke」: na': , so「rega」, 開山堂の 一番 上だったな, それが

o「te」raga arja: , o「te」raga taiheNkerja: zi「buNde」, お寺が あれは, お寺が 大変なら 自分で

kome「o」 kurete oqsa「No」 kaq「tei」taguraino sito「daqcjo」:- 米を 呉れて 和尚を 養っていたぐらいの 人だそうだと

de , kenokubowa , 「soida」moNde: sono kaku「be:qcju」:- から, 家久保は だから その 角兵衛っていう

mona: cja:Nt ka「itearu」 ka「ku」be: sewaniN kaku「be」:- ものは ちゃんと 書いてある 角兵衛 世話人 角兵衛

toka , kocjo: kaku「be:tokaqte」 ju:koto: u「taqtea」ru- とか 戸長 角兵衛とかって いうことを うだってある

wakedajo so:si「te」, kimuratacuzo:「mo」 utaqtea「ruwake」- わけだよ そうして 木付辰蔵も うだってあるわけ

da sono de 「ko:zisekini」NsjadamoNde , 「soremo」na: だ その で 工事責任者だから, それもなあ

sorjo: ano oremono ko:site asuq , naNda 「na」gakunaru- それを あの 俺も こうして 遊んで, なんだ 長くなる

ga 「ko」:ju:ko todaqke「jo」, 「ke」Nziro:zi「:gana」: u「ra」- が こういうことだったよ, 健次郎爺がな 俺の

gazi「:ga」 「kara」daga waru「itokini」na': ni「jasa」Nnicino, 爺が 体が わるい時には 二夜三日の

ni「jasa」Nnici「qte」 aNtaqcja: si「ramaiga」na': , oq「sa」N- 二夜三日って あんた方は 知るまいがな 和尚

ga , hucu hu「tabaN」 miq「ka」 kaka「qteitena」: konobjo:- が 二 二晩 三日 かかってな この病

niNo na^osite kudasaⁱqte ano: , o^kjo:daka ,
人を 直して 下さいって あのう お経だが

si^Nzi^{No} siruda^jo , ni^jasaNnicino ki^to: qteju:wa-
信心を するんだ, 二夜三日の 祈禱っていうわ

ke^da , ^ki:tako toga arukai , ni^jasaNnicino kito: -
けど, 聞いたことが あるかい 二夜三日の 祈禱

qte ju:kotowa ^ko:ni:nara ko:ni:ga ^hoNto:niⁱ
って いうことは 幸兄なら 幸兄が 本当に

karadaga warukute do:mo , no^oriino:qcju:wake dajo ,
体が わるくて どうも 直る力がないっていうわけだ

^sono^to^kini tano^muto hu^cukamiqka hu^tabaNkaka^qte
その時に 頼むと 二日三日 二晩かかって

ki^to:site kureruda^jo , ^so:site so^rewo ma^kura-
祈禱をして くれるんだ そうして それを 枕

motoⁿo sita haqteⁿa: sosite soide kioja^sume^ru
許の 下に 貼ってね そして それで 気を休める

wakeqda:ⁿa: , sore na^orukamo sireno:jo sorja: ,
わけだな, それ直るかも 知れないよ それは,

sono ni^jasaNniciⁿo kito:o ura^ga so:rjo:wa taⁿo -
その 二夜三日の 祈禱を 俺の 惣領(兄貴)は 頼

Ndadajo oqsaNni , so:site zi^cu , ^sja^te: , oqsaN-
んだのだ 和尚に, そうして 実よ, 舍弟よ 和尚

ni ni^jasaNⁿicino kito:o taⁿo^Nde aruqde , haⁱ i
に 二夜三日の 祈禱を 頼んで あるから もう

cjo:do ^hi^ga ki^tteiruqdade ^moraqtekoⁱqte ju:koto -
丁度 日が 来ているから 貰ってこいって いうこと

de , orega ^morai: iqtadajo , ano ojaziga ^sini -
で 俺が 貰いに 行ったんだ, あの 親父が 死に

so:nadade , so:siteiqte ^moraqte^sa , ano: o^sewa -
そうだから, そうして行って 貰ってさ, あのう お世話

saNdaqke , ki¹to: tano¹Ndade o¹huda: mo¹raini
さんだった, 祈禱 頼んだから お礼を 貰いに

kita¹qte juq¹tatokoroga ku¹retawake¹da , ho:site
来たって 云った所が(それを) 呉れたわけだ, そうして

moraqte¹sa , o¹ritekitatokoroga , otera¹nositaqka: no
貰ってさ, 下りて来たところが, お寺の下側の

ano: ka¹menozjo¹:saNno ki¹neNhiwo siqteiru¹ra ,
あのう 亀之丞さんの 記念碑を 知っているだろう,

a¹soko¹de ko:to maga¹qte hai kenoku¹bonoho: e ikika-
あそこで こうと 曲がって もう 家久保の方へ 行き

ka¹rudajo , a¹sokoma¹de ki¹tatokoroga oqsaNga , ano:
かかるんだ, あそこまで 来たところが 和尚が あのう

ho¹Ndo: no ano irigucini taqteite ko:siteite , a:
本堂の あの 入口に 立っていて こうしていて 「あゝ

te¹odase a:qcjuqteite , jo¹ba:ru¹dajo orjo¹:
手を出せ あゝ」って云っていて 呼ぶのだよ 俺を,

jo¹ba:rudajo sonotoki¹no sorjo: moraqtato¹kino
呼ぶのだよ その時の それを 貰った時の

hanasjo¹: siruto¹sa , (パンパンと手を打つ)
話を するとさ

ko:site te¹o ta¹takuda¹na oqsaNwa bakani¹: , pita-
こうして 手を 叩くんだな 和尚は ばかに, ピタ

pitapita: qte te¹o tataiteite¹na¹: , joikaNna ka¹mjo:
ピタピタって 手を 叩いていてな, ほどほどの 紙を

moqtekite ko:siruda¹jo , a¹re , korja ma¹da ohu¹dao
持ってきて こうするんだよ, あれ これは まだ お礼を

kure¹rurasi: ja¹:qtju: to¹kodena¹: , ma¹ta o¹hudao ,
くれるらしいなっていう ところだね, また お礼を

siNbuNgami: , o¹huda¹qte kaitajaco: kaka¹ete iqtawa-
新聞紙に お礼って 書いたのを かかえて 行ったわ

ke¹ da oqsa Ntoko¹ i so¹:sita¹ tokoro¹ ga i maju:jacuo
けだ 和尚の所へ そうしたところが 今いうのを

kureta¹ qkeda , da¹ ikusaN ko¹:ju¹:moN ga ano uci¹ ni
くれたのだ, 大工さん こういうものが あの 家に

a¹ ruga¹ na , ote¹ razja¹: hicu¹ jo: no na imo¹ Ndade ,
あるがな, お寺では 必要の ないものだから,

hae¹: bo¹ keko¹:baidaqke¹ na¹: anoto¹ kja:na¹: , bo¹ ke-
もう ぼけ気味だったな あの時はな, ぼけ

ko¹:baidemona¹ iga hai zeNko¹:saNga jaqte¹:damoNde
気味でもないが もう 善光さんが やってるんだから

hore oqsa¹ Nwa , so:site ku¹ roi iqte na¹ N¹daja¹:q-
それ 和尚は, そうして 隅へ 行って 何んだろうっ

cuqte hi¹ rogete mitatokoroga sokode hoNdo¹:de ,
て云って 広げて みたところが そこで 本堂で

akete mi¹ tatokoroga jø¹:ka¹ N ika¹ idajo ko¹: , ano:
開けて みた所が いいかげん 大きいのだ こう あのう

kami¹ wo , daika¹ ini sirukamio cu¹ ide¹ na: no
紙を ダイカイに する紙を 継いでね の

ka¹ zunosaN¹ ga , sore:ka¹ ite arudajo zju:buNno ici¹ ni
カズノさんが それへ書いて あるんだ 十分の 一に

ka¹ itearudade , mi¹ tatokoroga taNto zimo jome¹ mo-
書いてあるから 見たところ たくさん 字も 読めも

sino:ga , ki¹ muratacuzo¹: naNtju:koto: ka¹ itearu¹ qdajo,
しないが 木村辰蔵なんていうことを 書いてあるんだ,

korja: hoNdaga tonikaku zu¹ meN mitadakeqde , korja:
これは だが とにかく 図面 見ただけで これは

ta¹ isitamONdaqtju:de horja: ka¹ Nda:ja: , da¹ ga
たいしたものだといひので それは 勘だよ, だが

da¹ ita¹ i hore ore mo ba¹ ka , su¹ Nmino ba¹ kaqzja:naide
大体 それ 俺も 馬鹿, 完全な 馬鹿ではないから

waka¹qtada , korja kaNnoNdo:~no , seq¹ke¹:zudaqteju:-
判ったのだ、 これは 観音堂の 設計図だっていう

kotoga waka¹qtade do:~mo korja oqsaN waru¹ina o¹re
ことが 判ったから どうも これは 和尚さん 悪いね 俺

moraqte¹qtemo joidaka¹qtara e¹: e¹:desu e¹:desuqte
貰って行っても 良いのかって云ったら ええ 良いです 良いですって

ko:ju¹:wake¹qda ho¹re oqsa¹Nga , a¹:~ moraqtessa:
こういうわけだ それ 和尚が、 あゝ 貰ってさ

do:de o¹jaziga su¹:su:site¹rejacui mise¹te , imasa¹-
..... 親父が スヤスヤしてるのへ みせて、 さっ

qkino hanasiga ha¹i mata ku¹rikae¹sukotoni naruga
きの 話が もう 又 くりかえすことに なるが

so:si¹te te ni ha¹iqtawake¹da , so:~sitara ko¹qda
そうして 手に 入ったわけだ、 そうしたら 今度は

~kjo¹neN zjanai ~ko¹tosiqda kaNnoNdo:~no janega¹esiru-
去年 ではない 今年だ 観音堂の 屋根替える

toki¹ni , ~zicuni¹: arjo: mi¹se¹te kurjo: , ore~mo
ときに 実兄 あれを みせて くれ、 俺も

o¹renoda¹ini ko:~site jaqtadamo¹Ndade , soide soreo
俺の代に こうして やったんだから それで それを

ki¹ro¹kuni noko¹site okitaide ciq¹to¹ mise¹tekurjo:-
記録に 残して 置きたいから 少し みせてくれっ

qte , soizja¹: ci:qto mise¹tejaru , ci¹:qtomise¹te-
て それでは 少し みせてやる、 少しみせて

jaruqte ci¹:qto¹qcju: kucja: kikano¹:qkega soizja¹: ,
やるって 少しっていう 口は 聞かなかったが それでは

a¹resijo so¹:sitatokoroga sorjo: uci: ~do¹ko: saga-
あれだし そうしたところが それを 家に どこを 探

itemo doko:sagaitemo saq¹pa¹ri nani¹jo , ha¹te¹na
しても どこを探しても さっぱり 何さ はてな

do¹ koi suqtamoNzura¹ qte ju:tokode si¹ mizu mi¹ noruq-
 どこへ 失ったもんだらうって いうところで 清水へ 実(みのる)⁽¹⁷⁾

kozo:ga ho¹ re, kju:sakuno sa¹ to¹:sjo¹:ziNtokoi
 小僧が それ 久作の 佐藤庄次のところへ

de¹ si¹ ni iqte¹:zu¹ ra sigotoni, sa: sjo¹:ziNtokoi
 弟子に 行ってるんだらう 仕事に さあ 庄次の所へ

iqta¹:ja mi:bo¹:, ano: kaNno¹ Ndo:no seqke¹:zuo
 行ったのさ 「ミ一坊」 あのう 観音堂の 設計図を

mo¹ qtekite a¹ ruraqcjuqtatokoroga, o¹ rja: moqteki¹-
 持ってきて あるんだらうって云ったところが 俺は 持てき

cja: na¹ i qte ju:da¹ jo, moq¹ teki kenai wakja:nai
 ては ないって いうんだ, 持ってきてない わけはない

uci¹ nina¹ iqcjuqtara, so¹ izja¹: oto¹ qcja: orega
 家にないって云ったら それでは お父さん 俺が

ka¹ midana¹ i ano:, agetea¹ ruqte ko¹: ju:wake dajo,
 神棚へ あのう あげてあるって こういうわけだよ,

ki¹ temi¹ tatokoroga ka¹ misaNno tanae¹ na¹:, zibuNno
 来てみたところが 神様の 棚への 自分の

hamamacuno kuNreNzjono ano:, naNda socugjo:sjo:sjo-
 浜松の 訓練所の あのう なんだ 卒業証書

demo naNdemo zeNbu¹ sore: matomete¹ na, ma¹ ite¹ na,
 でも 何でも 全部 それへ 整めてね 巻いてね

ko: kamjo¹ cucu¹ mu irerumo¹ Nga a¹ ruda sono so¹ re:
 こう 紙を 包む 入れるものが あるんだ その それへ

irete¹ na, ka¹ midana¹ nai irete¹ na ho¹ ko¹ rio maq¹ siroku¹
 入れてね 神棚へ 入れてね ほこりを まっ白く

tate¹ teiruda, a¹: kokoni a¹ qtaqcju:toko¹ de daite¹-
 立てているのだ, あゝここに あったって云うところで 出して

sa ho:site tokoi moqteiqte jaqcjaqta, jaqcja-
 さ そうして ところへ 持っていった やっちゃった, やっちゃ

qta^{ga} , 'sa^qkimo konosito^{nimo} ki:taqkega
 ったが, さっきも この人にも 聞いたんだけど

'ki^j josisaNga 'to^r ruwake^{nja}: ikamai^{na} :
 清さんが 取る訳には 行くまいな

areqde^{na} :
 あれでな

B oq^{sa}'Nni azuke^{tamo}'Ndazurade
 和尚に 預けたもんだろうから

A a^{zuke}'tamo^{Ndade} 'ki^j josisaNtokoⁱ i^{ku} , 'to^r qtaq-
 預けたものだから 清さんの所へ 行く, 取った

'temo^j joⁱ imoNda^{na}
 ても 良いもんだな

B joiq^{da}'na , o^rrja: azuke^{tadaqkeqteju}: , koto^{Nna} -
 良いんだな, 俺は 預けただけっていう ことにな

rja:
 れば

A 'hoide oqsa^{Nga} ko^j:daqcju:wa^{jo}: , sono , sorjo:
 それで 和尚が こうだっていうよ, その それを

zicu , zi^{cuqdaiga} mijo^{wa} na^{idaga}'na: , ano: ,
 実, 実大工が 見ようは ないのだから, あのう

korja: , ano: o^{tera}'qzja: ano: hicujo:wa naiga
 これは あのう お寺では あのう 必要は ないて

o^rrja: ano hicujo:no arumoNde oqsa^N korjo: ka^{si}-
 俺は あの 必要の あるもので 和尚さん これを 貸し

te^j kurjo^{:qteju:de} 'da^{ikusaNni} ka^{se} te jaqta^{qte} ,
 て くれていうから 大工さんに 貸せて やったって,

juq^{ta} qtju:da^{na} , 'ki^j josisaNni kike^{ba}: , so^{rja}:
 云ったっていうんだな, 清さんに 聞けばね, それは

cigau^{qcuqtada} jo: , oq^{saNga} ko^j:ju:wakede ano: ,
 違うっていったんだ, 和尚が こういう訳で あのう

「o:i」cuqte ku⁷retaqte ju:koto:「na , oqsaNto zeNko⁷:-
 おゝいて 云ってくれたって いうことをな、 和尚と 善光

saNto 「saNni⁷ Nsitatokode sono hanasjo⁷: 「sizutomo⁷ q-
 さんと 三人集まったところで その 話を しようと思っ

tadaqke⁷ jo oremo joqtatoki⁷ ni⁷ na soidake⁷ N sonohana-
 たんだよ 俺も 寄ったときには だけど その話

si⁷ mazja: siqko⁷ si simaqta⁷ ga , arja: 「to:na⁷ Nhinmi-
 までは しないで しまったが、 あれは 盗難品み

tainamoNde keqkjoku oq⁷saNga oreni iku⁷ra kuretaq-
 たいなもので 結局 和尚が 俺に いくら (実際には) 呉れたって

temo o⁷rega midasa⁷ rete tora⁷rerja: 「ko:ni⁷:ni
 ても 俺が 見つかって 取られれば、 幸兄に

torarerja: , 「ko:ni⁷:no mo⁷Nnara , 「ko:ni⁷:qte 「keno-
 取られれば、 幸兄の ものなら 幸兄って 家

ku⁷ bono moNda⁷ jo⁷ na arja: , hoNto:wa⁷: , 「dokoeka⁷
 久保の もんだよな あれは、 本当は、 どこへか

ma:teqte ma:teqte kijo⁷sisaNtokoi osama⁷ qtajaco:
 廻ってって 廻ってって 清さんのところへ おさまったやつを

「nanjo: ore osa , ma⁷ ta 「jokose jokose⁷ qcja: tora-
 何を 俺 おさ…、 又 よこせ よこせっていうては 取る

reno⁷:「na⁷: moqto arja⁷: , 「soko⁷ i ikuto oqsaNga ,
 ことはできないな もっと あれは、 そこへ いくと 和尚が

「cumi⁷ o kinja: narano⁷:kotoni naru⁷de⁷ na: , azukari-
 罪を 着なければ ならないことに なるからな、 預かり

mono: sitoni jaru⁷qte kotowa
 ものを 人に やるって ことは

B 「soNnako⁷ ta: nai orja: moraqtamoNdade , orja:
 そんなことは ない 俺は 貰ったものだから 俺は

to⁷ rukeNriga , 「zju:bu⁷ N aruda⁷qtju:kotoni nara:「na⁷:
 取る権利が じゅうぶん あるのだということに なるよね

ziqca¹ : , ʼnusu¹ qdamoNzja : ʼnai , ʼmoqteke¹ qcjuqte
 実さん 盗んだものではない 持って行けて云って

A ʼnusu¹ qdamoNzja : naide oreni kureru
 盗んだものでは ないから 俺に くれる

B oreni kurjo : ʼtoka ka ʼsjo¹ : qcjuqtazja : nai mu¹ ko : de
 俺に くれとか 貸せて云ったのではない 向こうで

siri¹ mosino : mono ʼo agetasu¹ qte ku¹ retamoNda ʼde¹
 知りもしないものを 上げますって くれたものだから

o¹ rja : mo¹ raqtamoNdaqke ʼde , orja : kajasee¹ naiq¹ teju :
 俺は 買ったものだから 俺は 返すことができないという

kotoNnarja : , ʼsijo¹ Nnaidade sonositono ʼkeNri ʼwa¹
 ことにならば , 仕方がないから その人の 権利は

aruda ʼna¹ hoiqda ʼga , ʼkeNriwa na¹ ikota : naida ʼjo¹
 あるんだな だけど , 権利は ないことはない

daga moragtasito ʼwa¹
 だが 買った人は

A ʼke¹ Nri ʼga ʼna¹ : , ʼsuNmi ke¹ Nriwa naikota : nai ʼga ,
 権利がね , ぜんぜん 権利は ないことはないが ,

ʼmuko¹ : qzja : icizi ote¹ rae azuketamono : zicu¹ ni : ga
 むこうでは 一時 お寺へ 預けたものを 実兄が

sagaite moqteqtaqcju : kotoNnaru ʼto , ʼmuko : nimo
 探して 持って行ったっていう ことになると むこうにも

ke¹ Nriga aruqda ʼna ,
 権利が あるのだな

B ʼu N a ʼzuke¹ tamono na ʼra ʼna¹ :
 うん 預けたものならな

注

- P 14 (1) たどっていけば血筋にあたる，の意。
- P 14 (2) 人名「みや」のことか。
- P 18 (3) ガドーは「がんこ」の意。
- P 29 (4) sita の部分の不鮮明により推定。
- P 30 (5) イコジカは「せむし」の意。
- P 40 (6) 地名。キリクイともいう。「キリクイの組」の意。
- P 43 (7) 「小当」というあて字のしかたもある。湯島には，オードーコードーヤシャゴドーと云う，三つの組がある。「民俗学辞典」“頭屋”の項などを参照して考えると，これらは「大頭屋」「小頭屋」「ヤシャゴ頭屋」の意味だと思う。ヤシャゴは，「曾孫の子」のこと。
- P 59 (8) そういえば，私も方言調査で家を訪問するとき，この方法で断わられた経験がある。
- P 64 (9) 屋号。
- P 69 (10) お父さんから，のいい損ない。
- P 72 (11) 崩野の人。
- P 74 (12) 大川村地内の部落名。本川根町へ通ずる道筋にある。
- P 76 (13) この録音の前に出た話で，今から何年か以前，プロパンガスが村に普及しはじめた時，静岡市から売りこみに来ていたプロパン屋の「花村」が，その宣伝活動のさい，サービスとして生花の講習をしたこと。
- P 81 (14) 美代助さんは現在，新居町に住んでいて私とはじっこんの間柄

である。この美代助さんに教えて貰って大川村坂ノ上のあるお宅を訪ねる道すがら大森さんと知りあった。

- P 81 (15) 大川井清さんの先祖。
- P 82 (16) 大川井清さん宅の屋号。
- P 87 (17) 大森さんの子。

非 売 品

1972年3月

国立国語研究所 話しことば研究室 発行

115 東京都北区西ヶ丘3丁目9番4号